

資料編

1. 改定までの経過

平成 29 年度

年月日	会議等	内容
平成 29 年 7 月 13 日	都市計画審議会（報告）	・都市計画マスタープラン改定について
10 月 5 日	庁内検討会議	・改定方針について ・市民アンケート調査等の実施について
11 月 1 日	都市計画審議会（報告）	・改定方針について ・市民アンケート調査等の実施について
11 月 1 日	市民アンケート調査	・11 月 1 日～11 月 15 日 実施
11 月 6 日	団体ヒアリング調査	・農業委員会 ・商工会＜青年部＞ ・町総代会
11 月 14 日		
12 月 11 日		
平成 30 年 2 月 18 日	市民ワークショップ	・テーマ①まちづくりの課題や必要な取組 ・テーマ②地域の目指すべき将来像
2 月 20 日	都市計画審議会（報告）	・現行計画の検証結果について ・市民アンケート調査の結果について ・団体ヒアリング調査の結果について ・市民ワークショップの開催について ・まちづくりの課題について
3 月 7 日	庁内検討会議	・現行計画の検証結果について ・市民アンケート調査の結果について ・団体ヒアリング調査の結果について ・市民ワークショップの結果について ・まちづくりの課題について

平成 30 年度

年月日	会議等	内容
平成 30 年 4 月 26 日	庁内検討会議	・まちづくりの課題について ・全体構想について
5 月 28 日	都市計画審議会（報告）	・市民ワークショップの結果について ・まちづくりの課題について ・全体構想について
7 月 31 日	庁内検討会議	・地域別構想について ・計画の推進にあたりについて
8 月 28 日	都市計画審議会（報告）	・地域別構想について ・計画の推進にあたりについて
9 月 22 日	住民説明会	・①北部、中部 ②西南部、金剛、金剛東 ・③東部、中南部、東南部 ④全地域 ・⑤全地域
9 月 23 日		
9 月 24 日		
10 月 26 日	庁内検討会議	・住民説明会の結果について ・都市計画マスタープラン（素案）について
11 月 22 日	都市計画審議会（報告）	・住民説明会の結果について ・都市計画マスタープラン（素案）について
11 月 29 日	大阪府（意見照会）	・11 月 29 日～12 月 11 日 実施
平成 31 年 1 月 4 日	パブリックコメント（意見募集）	・1 月 4 日～1 月 31 日 実施
2 月 1 日	庁内検討会議	・都市計画マスタープラン（案）について
3 月 20 日	都市計画審議会（付議）	・都市計画マスタープラン改定について
3 月	—	・都市計画マスタープラン改定

2. 市民アンケート調査

1. 調査の概要

(1) 調査目的

市民アンケート調査は、「富田林市都市計画マスタープラン」の改定に向けて、市民の意向を参考に検討を進めるため、全世代（18 歳以上）と若者・子育て世代（18 歳以上 39 歳以下）を対象に実施しました。

(2) 調査項目の概要

- 回答者の属性について
- 現状の生活環境に対する満足度について
- まちづくりの重要な取組について
- まちの将来像について
- 必要な施設について
- 自由意見

(3) 調査対象

1) 全世代調査

対 象 者	18 歳以上の市民 (平成 29 年 10 月 1 日現在の住民基本台帳登録者)
	3,000 人（無作為抽出）

2) 若者・子育て世代調査

対 象 者	18 歳以上 39 歳以下の市民 (平成 29 年 10 月 1 日現在の住民基本台帳登録者)
	1,000 人（無作為抽出）

(4) 調査方法

1) 調査期間

平成 29 年 11 月 1 日発送 ～ 平成 29 年 11 月 15 日締切

※締切り後も返送があったため、平成 29 年 12 月 22 日までを集計

2) 配布回答

郵送による配布および回答

(5) 配布回答結果

区分	配布数	回答数	回答率
全世代調査	3,000	970	32.3%
若者・子育て世代調査	1,000	220	22.0%

2. 調査結果の概要

(1) 集計方法

調査結果は、市民全体の意向を示す全世代調査と、若者や子育て世代の意向を示す若者・子育て世代調査に区分して集計を行いました。

なお、若者・子育て世代の集計にあたっては、全世代調査の18歳以上39歳以下の回答を合計し、集計を行いました。

区分	集計対象数	備考
全世代調査	125	18歳以上39歳以下の回答数
若者・子育て世代調査	220	
計	345	

- ・ 回答率（％）は、無回答を除く回答数を基数として算出しています。
- ・ 単数回答の質問では、端数処理の関係で合計が100%とならない場合があります。
- ・ 複数回答の質問では、回答数が基数のため集計結果の合計が100%を超えます。

(2) 結果概要

結果概要には、以下の設問における、全世代調査、若者・子育て世代調査の単純集計結果及び地域別のクロス集計結果を記載しています。

1) 全世代調査、若者・子育て世代調査の単純集計結果

- ① 性別、② 年齢、③ 職業
- ④ 住まいの地域、⑤ 居住年数、⑥ 定住意向
- ⑦ 日常の買い物場所、⑧ 買い物の交通手段
- ⑨ 現状の生活環境に対する満足度
- ⑩ 現状の生活環境に対する満足度と、まちづくりの取組の重要度の分析
- ⑪ 市街化調整区域の土地利用、⑫ 市街化調整区域の土地活用
- ⑬ 必要な施設
- ⑭ 自由意見

2) 地域別のクロス集計結果

- ① 現状の生活環境に対する満足度
- ② まちの将来像
- ③ 必要な施設

3. 全世代調査、若者・子育て世代調査の単純集計結果

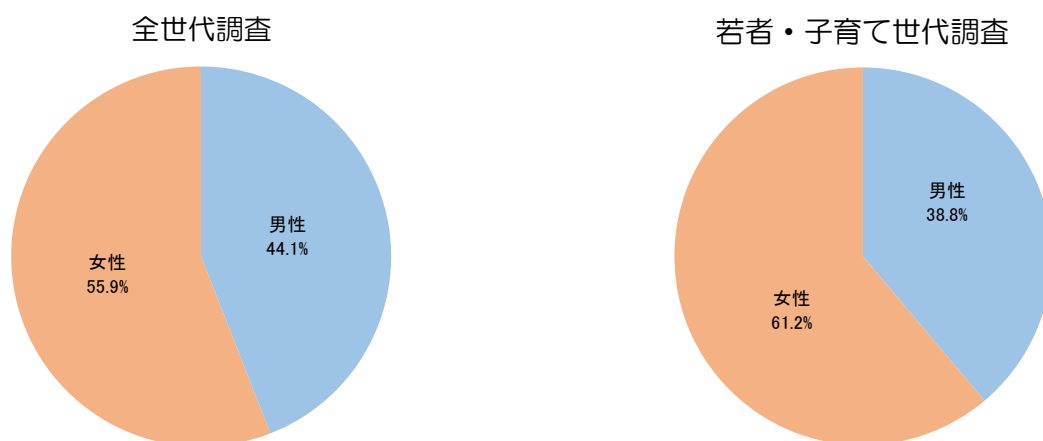
① 性別（単数回答）

○全世代調査

- 「女性」の回答者が55.9%、「男性」の回答者が44.1%となっています。

○若者・子育て世代調査

- 「女性」の回答者が61.2%、「男性」の回答者が38.8%となっています。



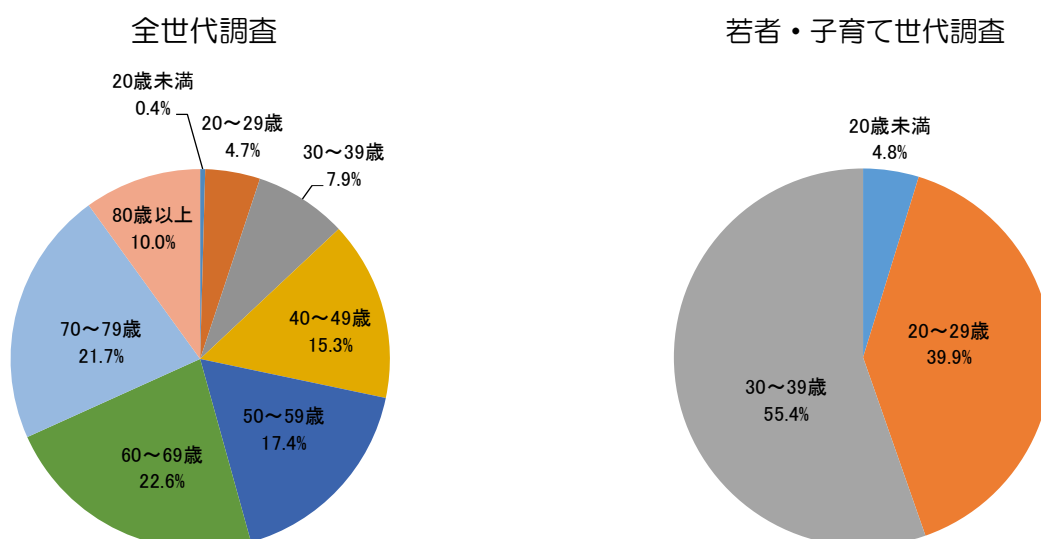
② 年齢（単数回答）

○全世代調査

- 「60 歳代」の回答者が22.6%と最も多く、次いで「70 歳代」が21.7%、「50 歳代」が17.4%で、60 歳代以上が54.3%と半数以上を占め、39 歳以下の若者・子育て世代は13.0%となっています。

○若者・子育て世代調査

- 「30 歳代」の回答者が55.4%と最も多く、次いで「20 歳代」が39.9%、「20 歳未満」が4.8%となっています。



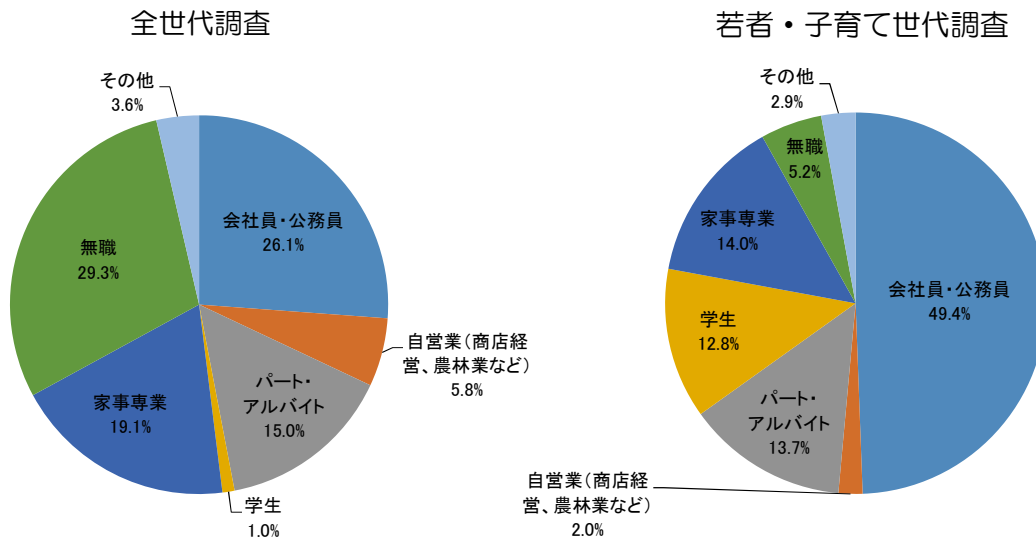
③ 職業（単数回答）

○全世代調査

- ・「無職」と回答された方が 29.3%と最も多く、次いで「会社員・公務員」が 26.1%で、「家事専業」が 19.1%となっています。

○若者・子育て世代調査

- ・「会社員・公務員」と回答された方が 49.4%と最も多く、次いで「家事専業」が 14.0%で、「パート・アルバイト」が 13.7%となっています。



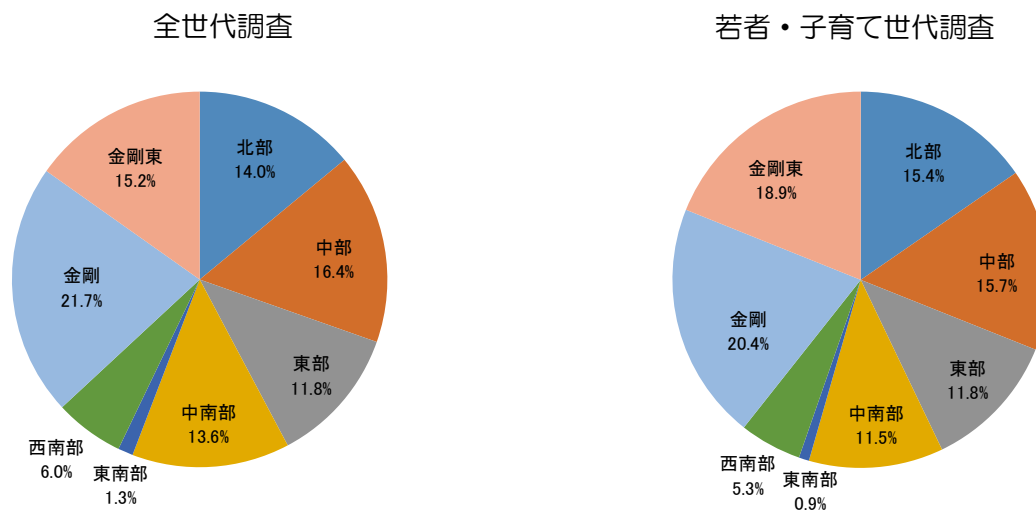
④ 住まいの地域（単数回答）

○全世代調査

- ・「金剛」が 21.7%と最も多く、次いで「中部」が 16.4%となっています。

○若者・子育て世代調査

- ・「金剛」が 20.4%と最も多く、次いで「金剛東」が 18.9%となっています。



⑤ 居住年数（単数回答）

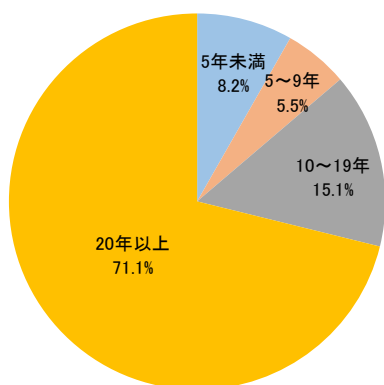
○全世代調査

- 「20年以上」と回答された方が71.1%と最も多く、次いで「10～19年」が15.1%となっています。

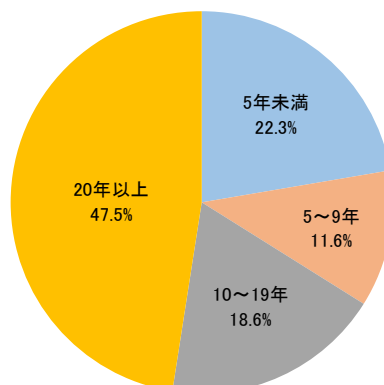
○若者・子育て世代調査

- 「20年以上」と回答された方が47.5%と最も多くなっています。

全世代調査



若者・子育て世代調査



⑥ 定住意向（単数回答）

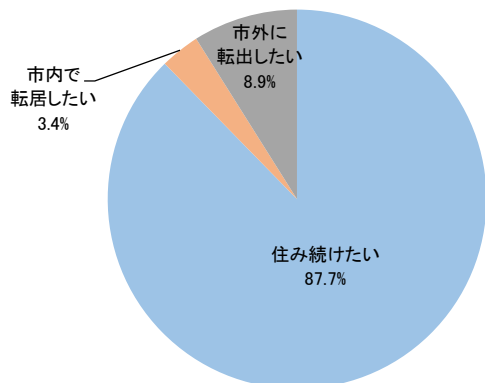
○全世代調査

- 「住み続けたい」と回答された方が87.7%と最も多く、「市外に転出したい」は8.9%となっています。

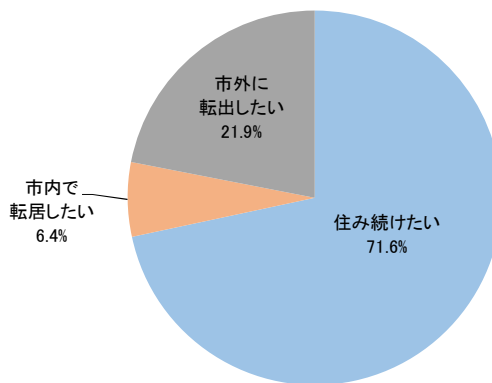
○若者・子育て世代調査

- 「住み続けたい」と回答された方が71.6%と最も多く、「市外に転出したい」は21.9%となっています。

全世代調査



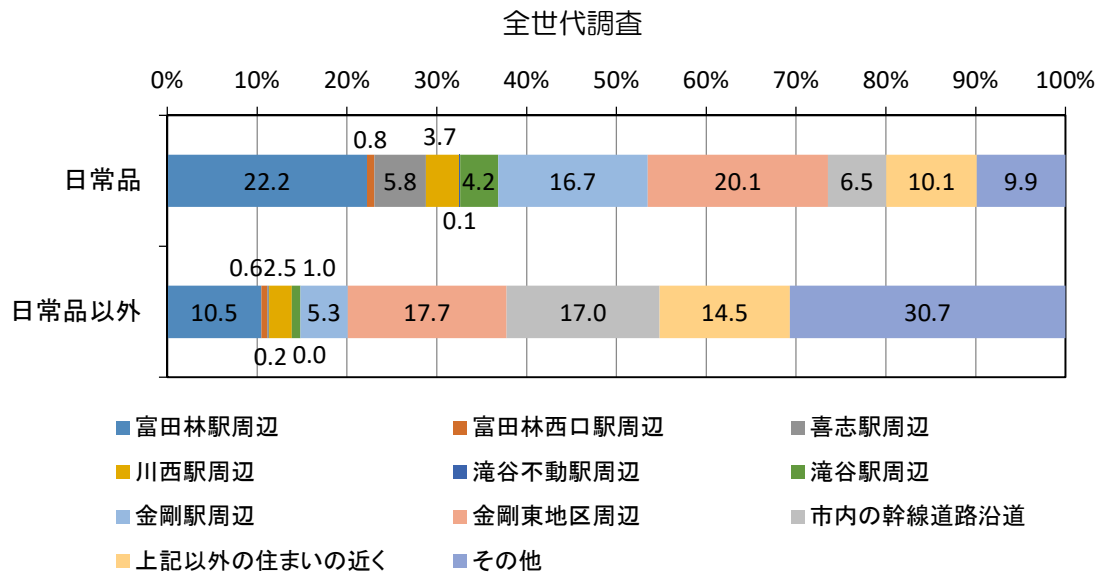
若者・子育て世代調査



⑦ 日常の買い物場所（単数回答）

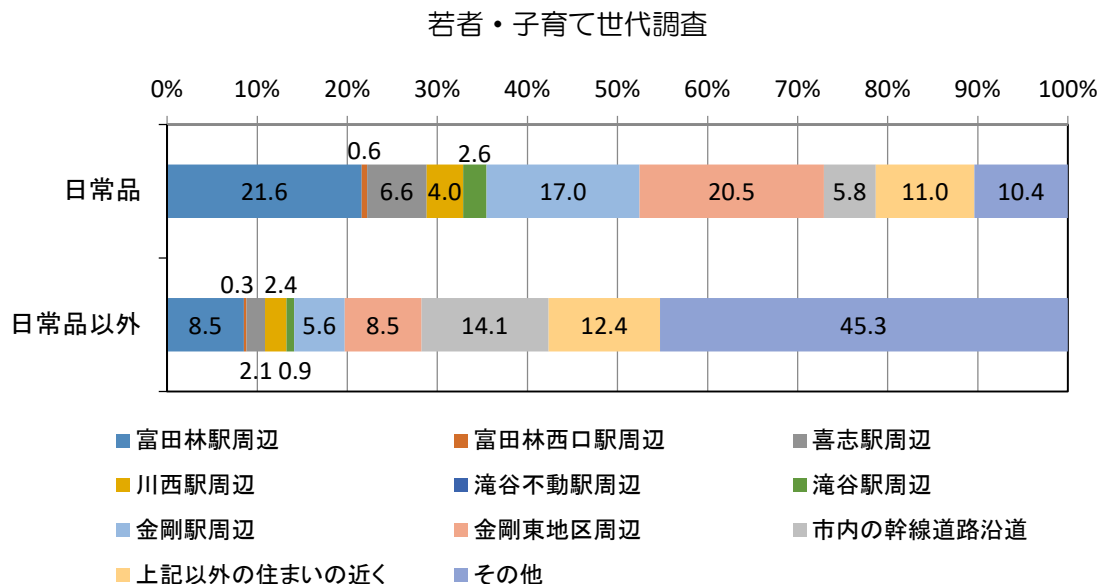
○全世代調査

- ・日常品の買い物場所は、「富田林駅周辺」が22.2%、「金剛東地区周辺」が20.1%、「金剛駅周辺」が16.7%と多くなっています。
 - ・日常品以外は「その他」が30.7%と最も多く、次いで「金剛東地区周辺」が17.7%、「市内の幹線道路沿道」が17.0%となっています。
- ※「その他」の多くは大阪市で、和泉市等の近隣市も一部あげられています。



○若者・子育て世代調査

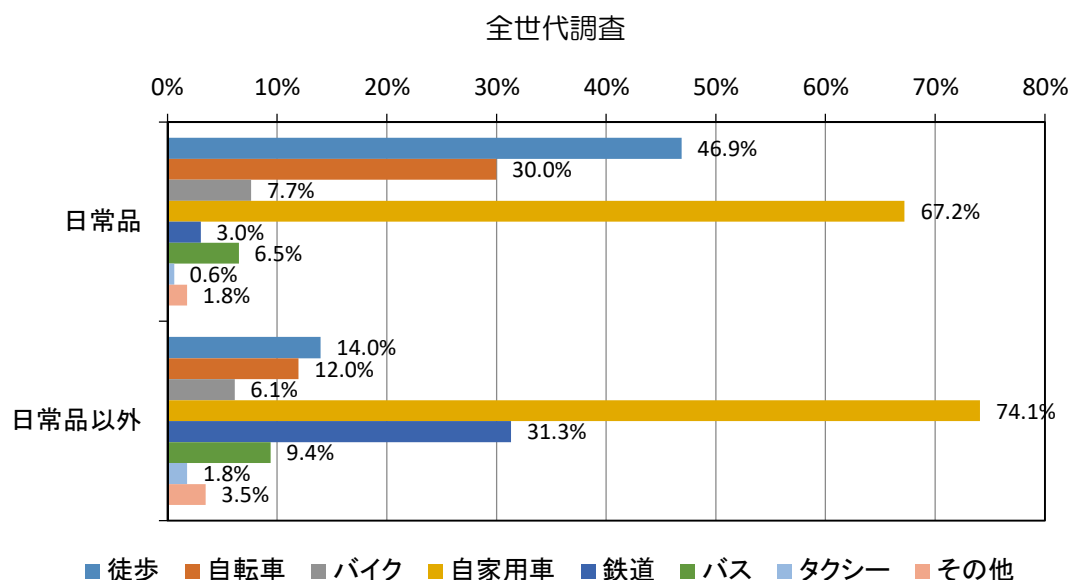
- ・日常品の買い物場所は、「富田林駅周辺」が21.6%、「金剛東地区周辺」が20.5%、「金剛駅周辺」が17.0%と多くなっています。
 - ・日常品以外は「その他」が45.3%と最も多く、次いで「市内の幹線道路沿道」が14.1%、「住まいの近く」が12.4%となっています。
- ※「その他」の多くは大阪市で、和泉市等の近隣市も一部あげられています。



⑧ 買い物の交通手段（複数回答）

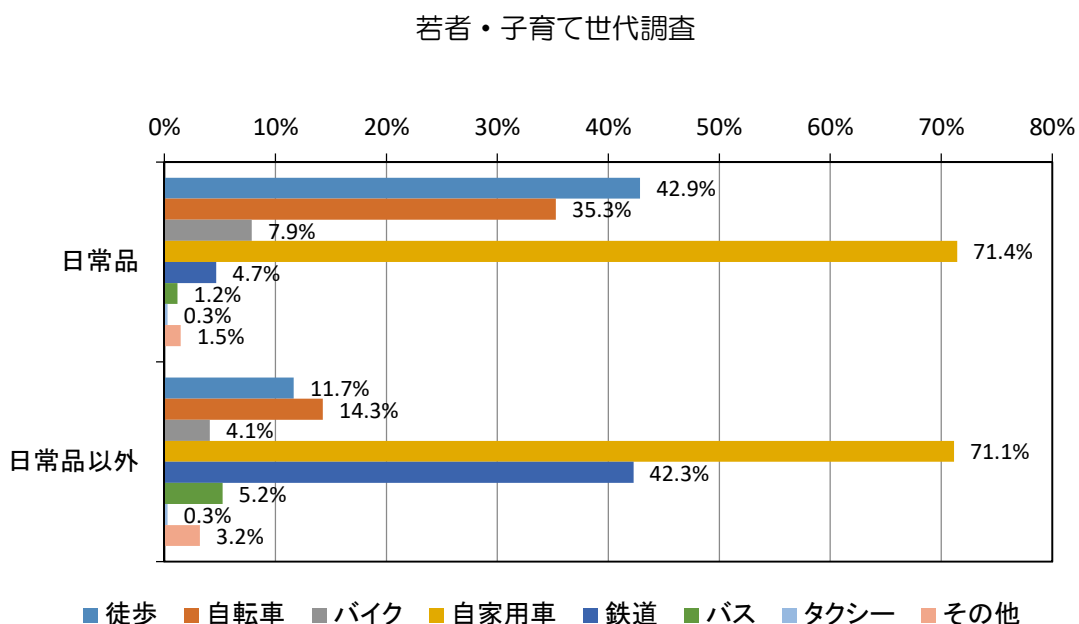
○全世代調査

- 日常品の交通手段は、「自家用車」が67.2%で最も多くなっていますが、徒歩（46.9%）・自転車（30.0%）は合わせて76.9%となっています。
- 日常品以外の交通手段は、「自家用車」が74.1%と最も多く、次いで「鉄道」が31.3%となっています。



○若者・子育て世代調査

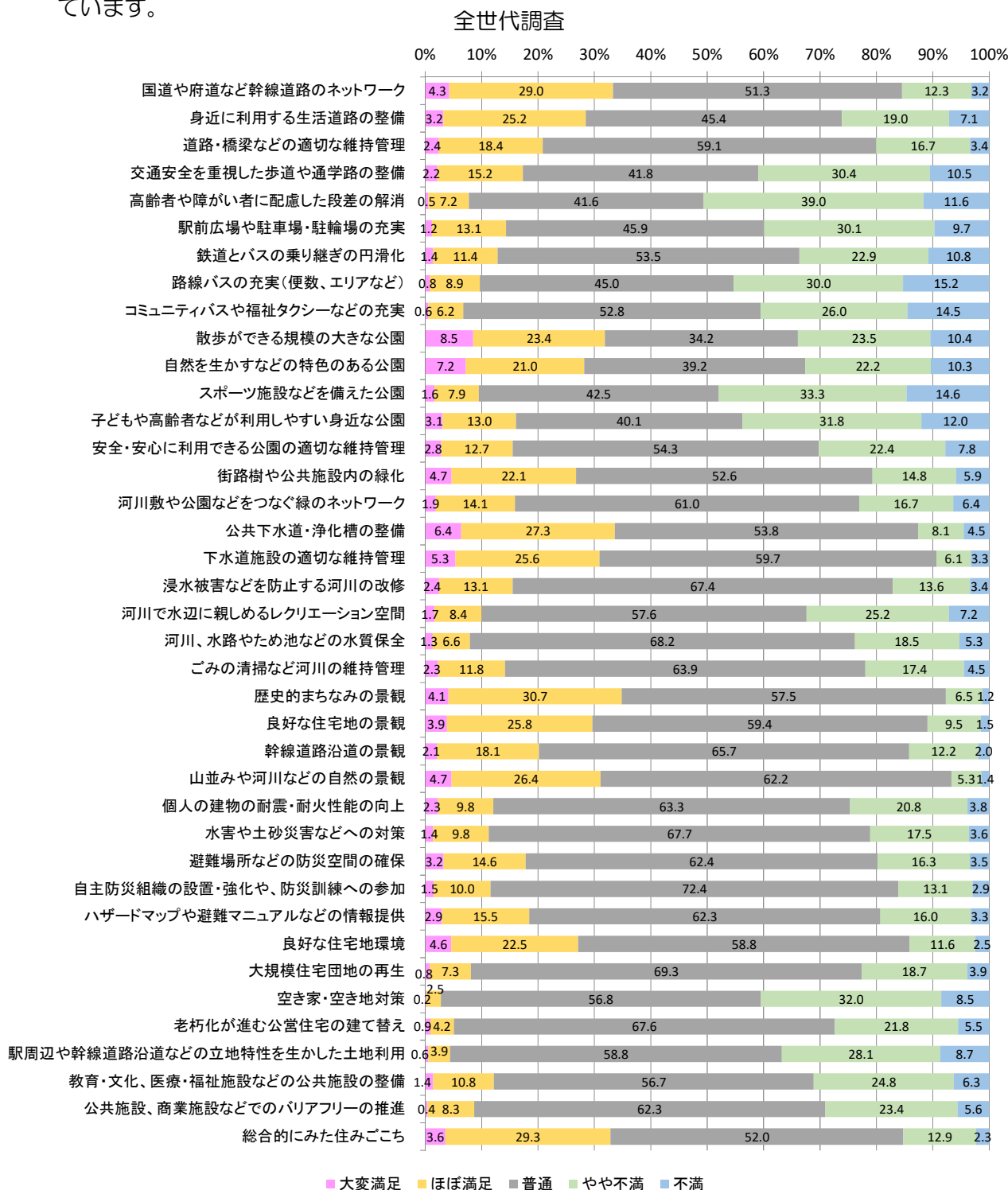
- 日常品の交通手段は、「自家用車」が71.4%で最も多くなっていますが、徒歩（42.9%）・自転車（35.3%）は合わせて78.2%となっています。
- 日常品以外の交通手段は、「自家用車」が71.1%と最も多く、次いで「鉄道」が42.3%となっています。



⑨ 現状の生活環境に対する満足度（単数回答）

○全世代調査

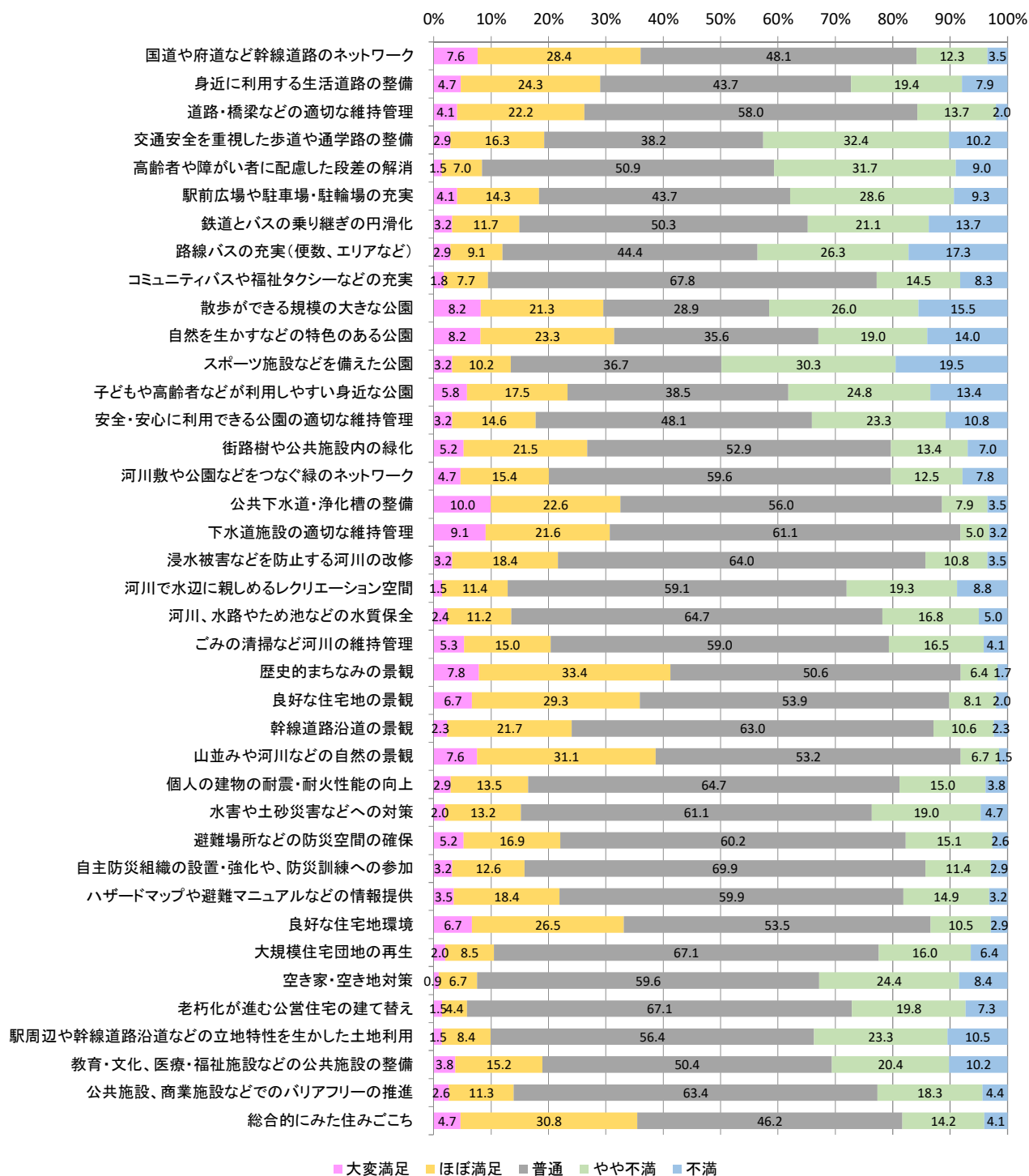
- 満足度は、特に「歴史的まちなみの景観」、「公共下水道・浄化槽の整備」、「国道や府道など幹線道路のネットワーク」、「散歩ができる規模の大きな公園」、「山並みや河川などの自然の景観」が高くなっています。
- 不満度は、特に「高齢者や障がい者に配慮した段差の解消」、「スポーツ施設などを備えた公園」、「路線バスの充実（便数、エリアなど）」、「コミュニティバスや福祉タクシーなどの充実」、「空き家・空き地対策」、「駅周辺や幹線道路沿道などの立地特性を生かした土地利用」が高くなっています。



○若者・子育て世代調査

- ・満足度は、特に「歴史的まちなみの景観」、「山並みや河川などの自然の景観」、「国道や府道など幹線道路のネットワーク」、「良好な住宅地の景観」、「良好な住宅地環境」が高くなっています。
- ・不満度は、特に「路線バスの充実（便数、エリアなど）」、「スポーツ施設などを備えた公園」、「高齢者や障がい者に配慮した段差の解消」、「駅周辺や幹線道路沿道などの立地特性を生かした土地利用」が高くなっています。

若者・子育て世代調査



⑩ 現状の生活環境に対する満足度と、まちづくりの取組の重要度の分析

- ・ 現況の生活環境に対する満足度と、まちづくりの取組の重要度の関係を分析しました。

○現状の生活環境に対する満足度

- ・ 満足度は、選択肢に対して以下の点数を設定して加重平均を算出しました。「満足」への回答数が多いほどプラスの値になり、「不満」への回答数が多いほどマイナスの値になります。

$$\text{満足度} = (\text{「満足」の回答数} \times 2 \text{ 点} + \text{「ほぼ満足」の回答数} \times 1 \text{ 点} + \text{「やや不満」の回答数} \times -1 \text{ 点} + \text{「不満」の回答数} \times -2 \text{ 点}) / \text{無回答を除く全回答数}$$

○まちづくりの取組の重要度

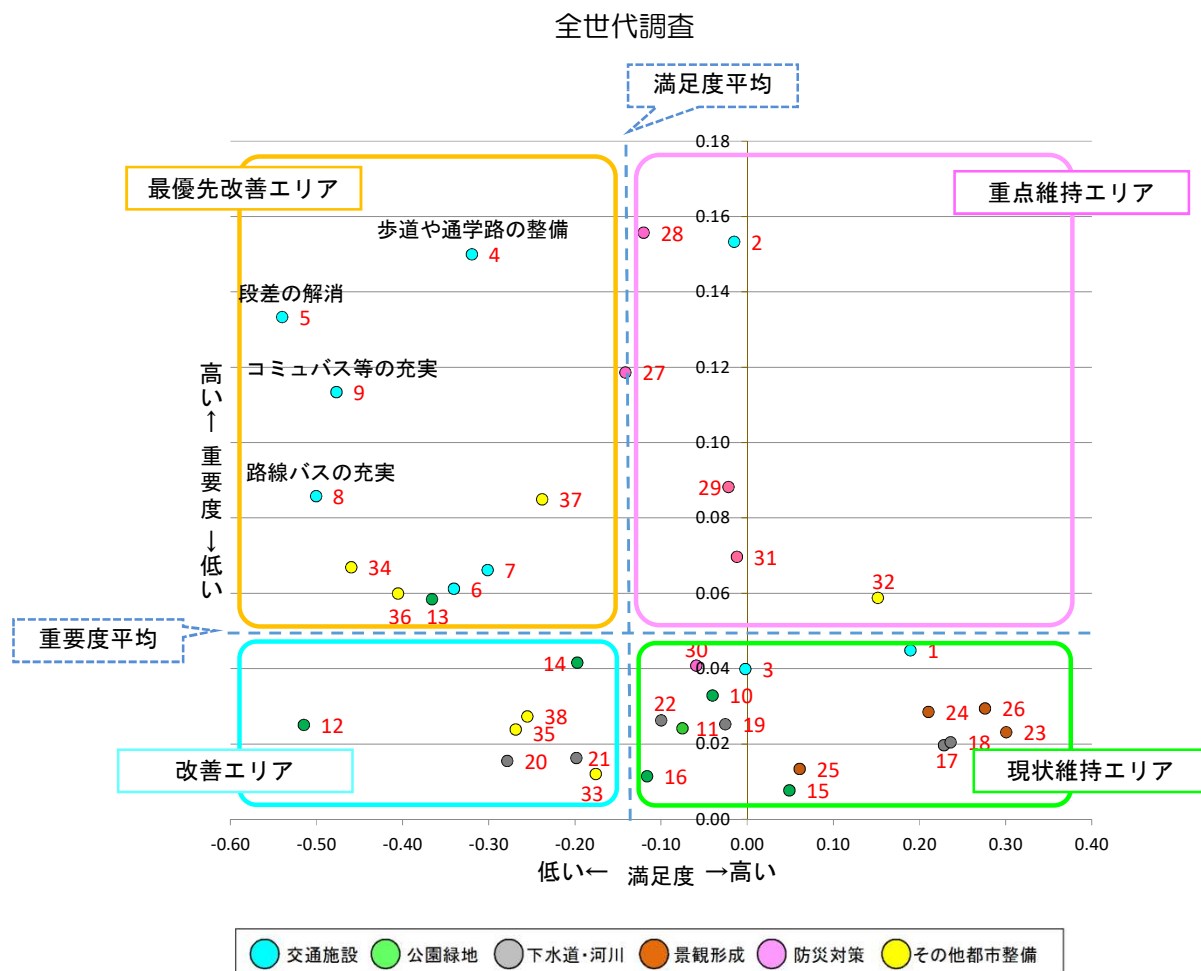
- ・ 「まちづくりの取組の重要度」は、「現状の生活環境に対する満足度」と、「まちづくりの重要な取組分野」の回答割合をもとに算出しました。（「現状の生活環境に対する満足度」で設定していない設問を除く）
- ・ なお、まちづくりの重要な取組分野については、地域別構想に記載しています。

（例 交通施設の場合）

選択肢	満足度の 回答割合 (①)	重要な取組分野の 回答割合 (②)	重要度 (①×②)
国道や府道などの幹線道路のネットワーク	0.14	0.31	0.04
身近に利用する生活道路の整備	0.49		0.15
道路・橋梁などの適切な維持管理	0.13		0.04
交通安全を重視した歩道や通学路の整備	0.48		0.15
高齢者や障がい者に配慮した段差の解消	0.43		0.13
駅前広場や駐車場・駐輪場の充実	0.20		0.06
鉄道とバスの乗り継ぎの円滑化	0.21		0.07
路線バスの充実（便数、エリアなど）	0.28		0.09
コミュニティバスや福祉タクシーなどの充実	0.36		0.11

○分析結果

- 満足度が低く重要度が高い“最優先改善エリア”では、「交通安全を重視した歩道や通学路の整備」や「高齢者や障がい者に配慮した段差の解消」、「コミュニティバスや福祉タクシーなどの充実」等、交通施設分野の項目があげられます。



交通施設	1	国道や府道など幹線道路のネットワーク
	2	身近に利用する生活道路の整備
	3	道路・橋梁などの適切な維持管理
	4	交通安全を重視した歩道や通学路の整備
	5	高齢者や障がい者に配慮した段差の解消
	6	駅前広場や駐車場・駐輪場の充実
	7	鉄道とバスの乗り継ぎの円滑化
	8	路線バスの充実(便数、エリアなど)
	9	コミュニティバスや福祉タクシーなどの充実
公園緑地	10	散歩ができる規模の大きな公園
	11	自然を生かすなどの特色のある公園
	12	スポーツ施設などを備えた公園
	13	子どもや高齢者などが利用しやすい身近な公園
	14	安全・安心に利用できる公園の適切な維持管理
	15	街路樹や公共施設内の緑化
	16	河川敷や公園などをつなぐ緑のネットワーク

下水道 河川	17	公共下水道・浄化槽の整備
	18	下水道施設の適切な維持管理
	19	浸水被害などを防止する河川の改修
	20	河川で水辺に親しめるレクリエーション空間
	21	河川、水路やため池などの水質保全
	22	ごみの清掃など河川の維持管理
景観形成	23	歴史的まちなみの景観
	24	良好な住宅地の景観
	25	幹線道路沿道の景観
	26	山並みや河川などの自然の景観
防災対策	27	個人の建物の耐震・耐火性能の向上
	28	水害や土砂災害などへの対策
	29	避難場所などの防災空間の確保
	30	自主防災組織の設置・強化や、防災訓練への参加
	31	ハザードマップや避難マニュアルなどの情報提供
その他都市整備	32	良好な住宅地環境
	33	大規模住宅団地の再生
	34	空き家・空き地対策
	35	老朽化が進む公営住宅の建て替え
	36	駅周辺や幹線道路沿道などの立地特性を生かした土地利用
	37	教育・文化、医療・福祉施設などの公共施設の整備
	38	公共施設、商業施設などでのバリアフリーの推進

⑪ 市街化調整区域の土地利用（単数回答）

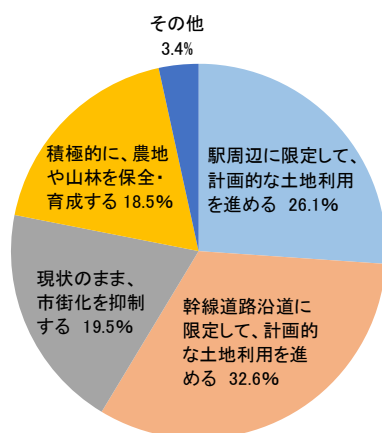
○全世代調査

- 「幹線道路沿道に限定して、計画的な土地利用を進める」が 32.6%と最も多く、次いで「駅周辺に限定して、計画的な土地利用を進める」が 26.1%で、「現状のまま、市街化を抑制する」は 19.5%となっています。

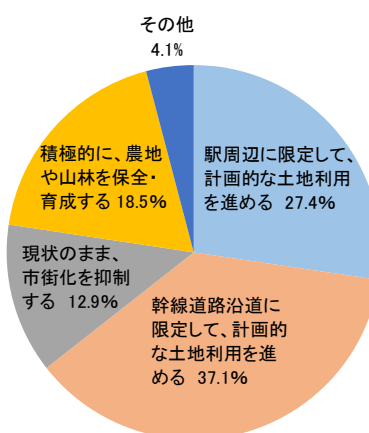
○若者・子育て世代調査

- 「幹線道路沿道に限定して、計画的な土地利用を進める」が 37.1%と最も多く、次いで「駅周辺に限定して、計画的な土地利用を進める」が 27.4%で、「現状のまま、市街化を抑制する」は 12.9%となっています。

全世代調査



若者・子育て世代調査



⑫ 市街化調整区域の土地活用（単数回答） ※ ⑪計画的な土地利用の回答者限定

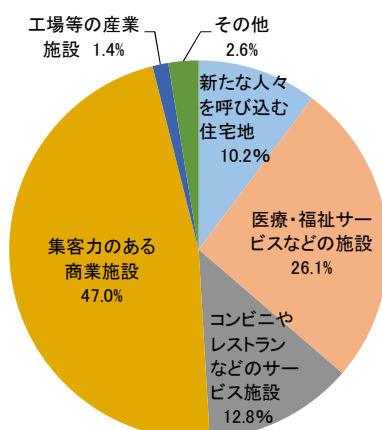
○全世代調査

- 「集客力のある商業施設」が 47.0%と最も多く、次いで「医療・福祉サービスなどの施設」が 26.1%、「コンビニやレストランなどのサービス施設」が 12.8%となっています。

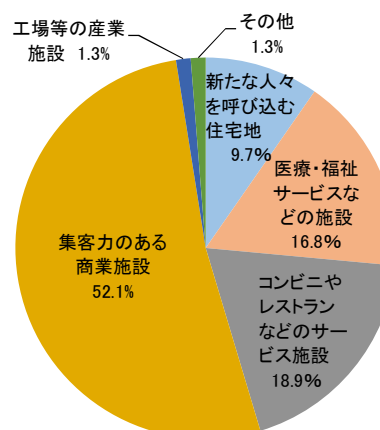
○若者・子育て世代調査

- 「集客力のある商業施設」が 52.1%と最も多く、次いで「コンビニやレストランなどのサービス施設」が 18.9%、「医療・福祉サービスなどの施設」が 16.8%となっています。

全世代調査



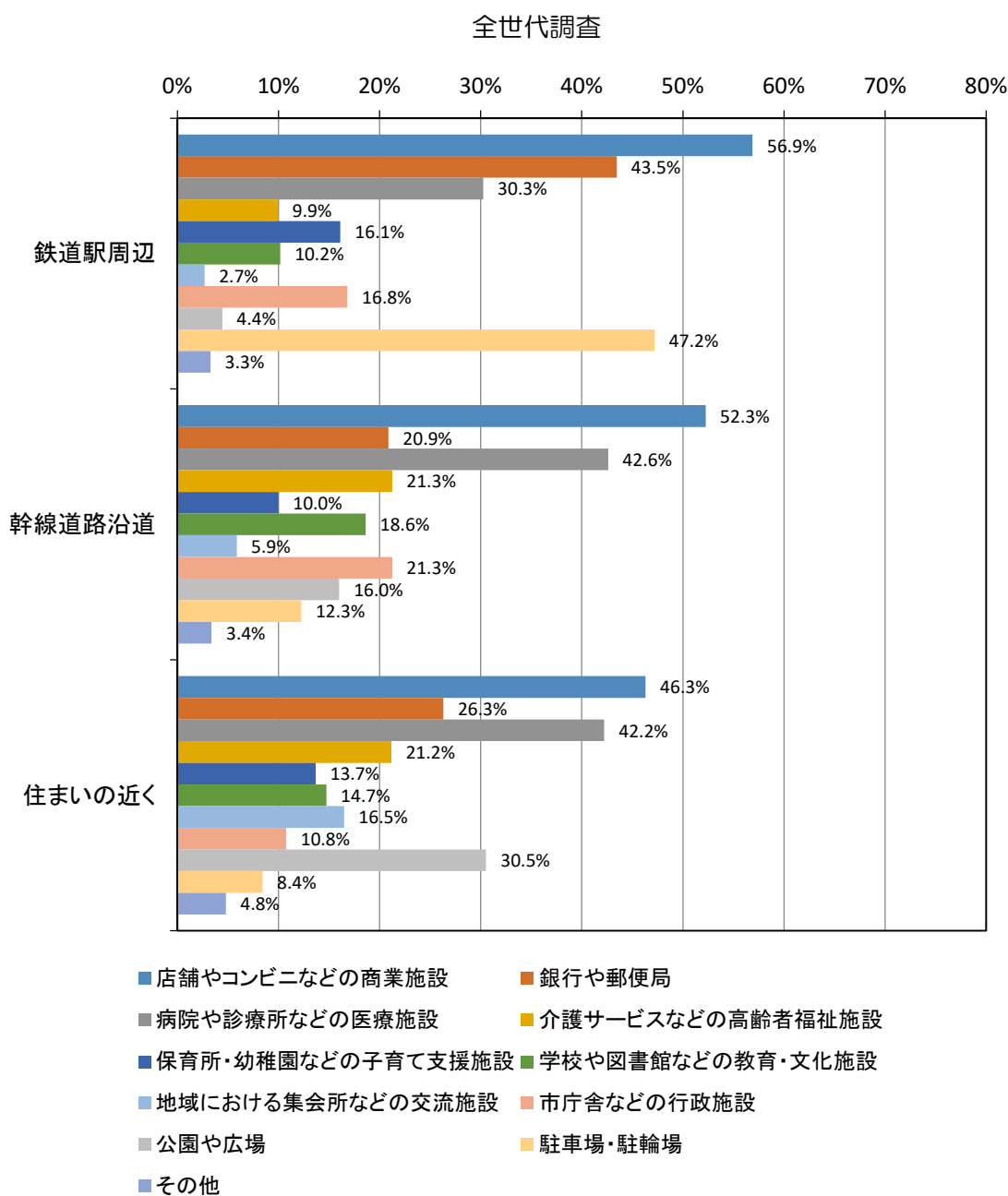
若者・子育て世代調査



⑬ 必要な施設（複数回答）

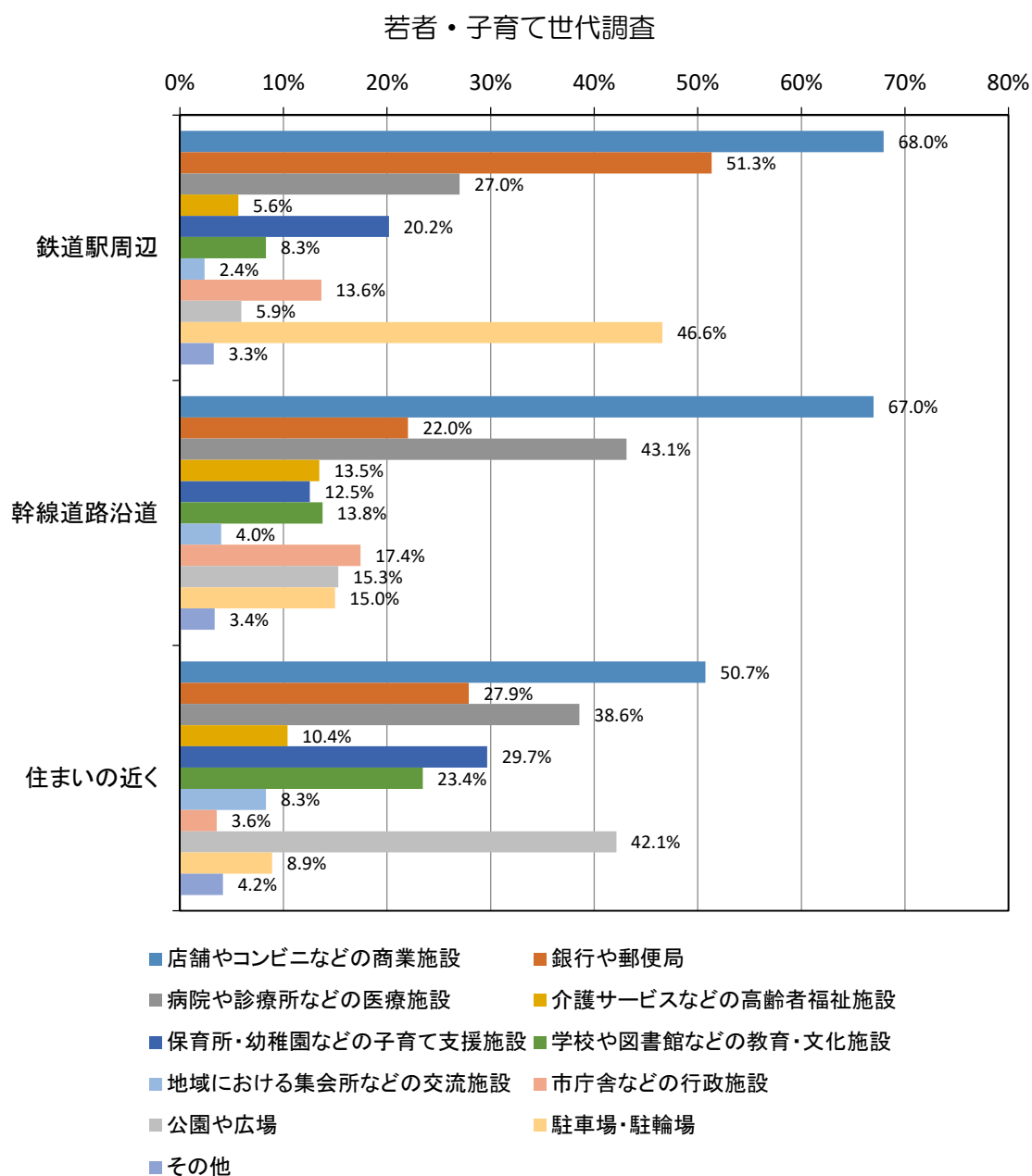
○全世代調査

- ・ 鉄道駅周辺では、「店舗やコンビニなどの商業施設」が56.9%と最も多く、次いで「駐車場・駐輪場」が47.2%、「銀行や郵便局」が43.5%、「病院や診療所などの医療施設」が30.3%となっています。
- ・ 幹線道路沿道では、「店舗やコンビニなどの商業施設」が52.3%、「病院や診療所などの医療施設」が42.6%と多くなっています。
- ・ 住まいの近くでは、「店舗やコンビニなどの商業施設」が46.3%、「病院や診療所などの医療施設」が42.2%と多くなっています。



○若者・子育て世代調査

- ・ 鉄道駅周辺では、「店舗やコンビニなどの商業施設」が68.0%と最も多く、次いで「銀行や郵便局」が51.3%、「駐車場・駐輪場」が46.6%となっています。
- ・ 幹線道路沿道では、「店舗やコンビニなどの商業施設」が67.0%と最も多く、次いで「病院や診療所などの医療施設」が43.1%と多くなっています。
- ・ 住まいの近くでは、「店舗やコンビニなどの商業施設」が50.7%と最も多く、次いで「公園や広場」が42.1%、「病院や診療所などの医療施設」が38.6%と多くなっています。



⑭ 自由意見

自由意見記述欄の記入者は 440 名（延べ 671 件）で、道路交通、公共交通に関する意見が特に多く、公共施設等、商業、公園・緑地に関する意見等も多く記入されています。

順位	項目	記入数	構成比	主な意見
1	道路交通	96	14.3%	歩道の整備や補修、自転車レーンの設置、東西交通網の整備、高速道路の実現化、幹線道路へのアクセス道路や駅前広場の整備など
2	公共交通	92	13.7%	コミュニティバスや路線バスの充実、鉄道との乗継改善、鉄道の複線化、地下鉄の延伸 など
3	公共施設等	67	10.0%	図書館の充実、総合体育館の改修、医療や福祉施設の充実、子育て支援施設の充実 など
4	商業	65	9.7%	駅周辺や幹線道路沿道の活性化、大規模集客施設の立地、飲食店の整備など
5	公園・緑地	55	8.2%	ボール遊びができる公園、老若男女が楽しめる公園、公園の維持管理 など
6	市街地整備等	26	3.9%	駅前の整備、土地の有効活用 など
7	防犯	25	3.7%	街灯、防犯カメラの設置 など
8	住宅・空き家等	23	3.4%	金剛団地の再生、空き家の管理 など
9	子育て支援	22	3.3%	保育所の整備、雨天でも遊べる場所 など
10	環境・上下水道	19	2.8%	ごみの収集方法、下水道の整備 など
11	防災	14	2.1%	水害、洪水対策 など
11	景観・美化	14	2.1%	街路樹、公園植栽の管理 など
11	コンパクト化	14	2.1%	商業施設・居住の集約化、身近な施設の充実も など
14	産業・雇用	14	2.1%	工業団地の充実、雇用の確保 など
15	歴史・伝統	12	1.8%	寺内町の活用、だんじりの騒音 など
16	観光等	11	1.6%	PL 花火の活用、観光の取組 など
17	高齢者福祉	8	1.2%	介護、高齢者の健康づくり など
18	地域活動・コミュニティ	6	0.9%	地域のまとまり、助け合い など
19	まちの PR	4	0.6%	富田林市の良さのアピール など
—	まちづくり全般	54	8.0%	誰もが暮らしやすいまち など
—	行政（要望等）	19	2.8%	
—	その他	11	1.6%	
	合計	671 件	100.0%	

4. 地域別のクロス集計結果

- 都市計画マスタープランにおける地域区分（8 地域）ごとの傾向を以下に示します。



地域区分図

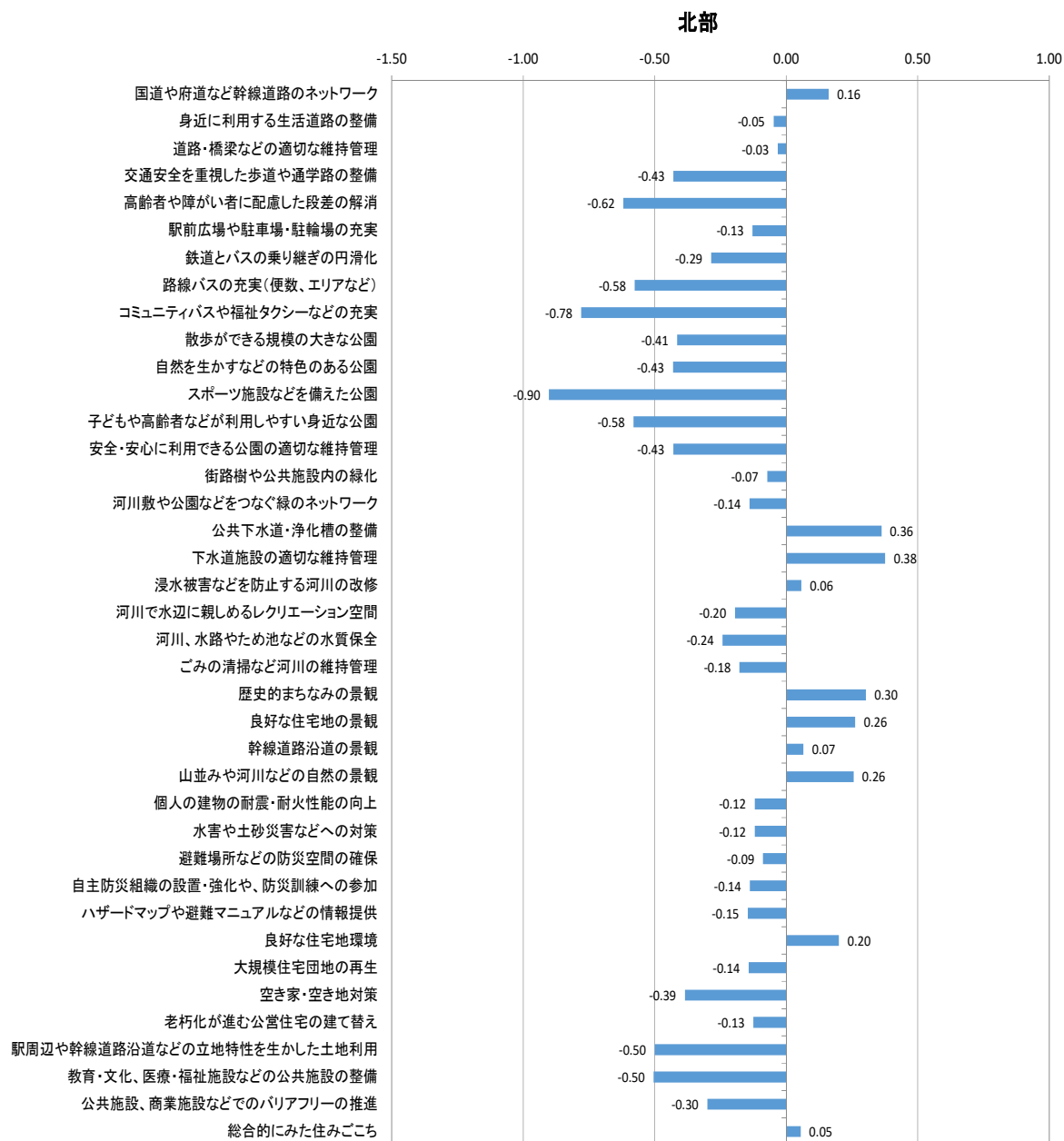
① 現状の生活環境に対する満足度（単数回答）

- 現状の生活環境への満足度は、選択肢に対して以下の点数を設定して加重平均を算出しました。
「満足」への回答数が多いほどプラスの値になり、「不満」への回答数が多いほどマイナスの値になります。

$$\text{満足度} = (\text{「満足」の回答数} \times 2 \text{点} + \text{「ほぼ満足」の回答数} \times 1 \text{点} + \text{「やや不満」の回答数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答数} \times -2) \div \text{無回答を除く全回答数}$$

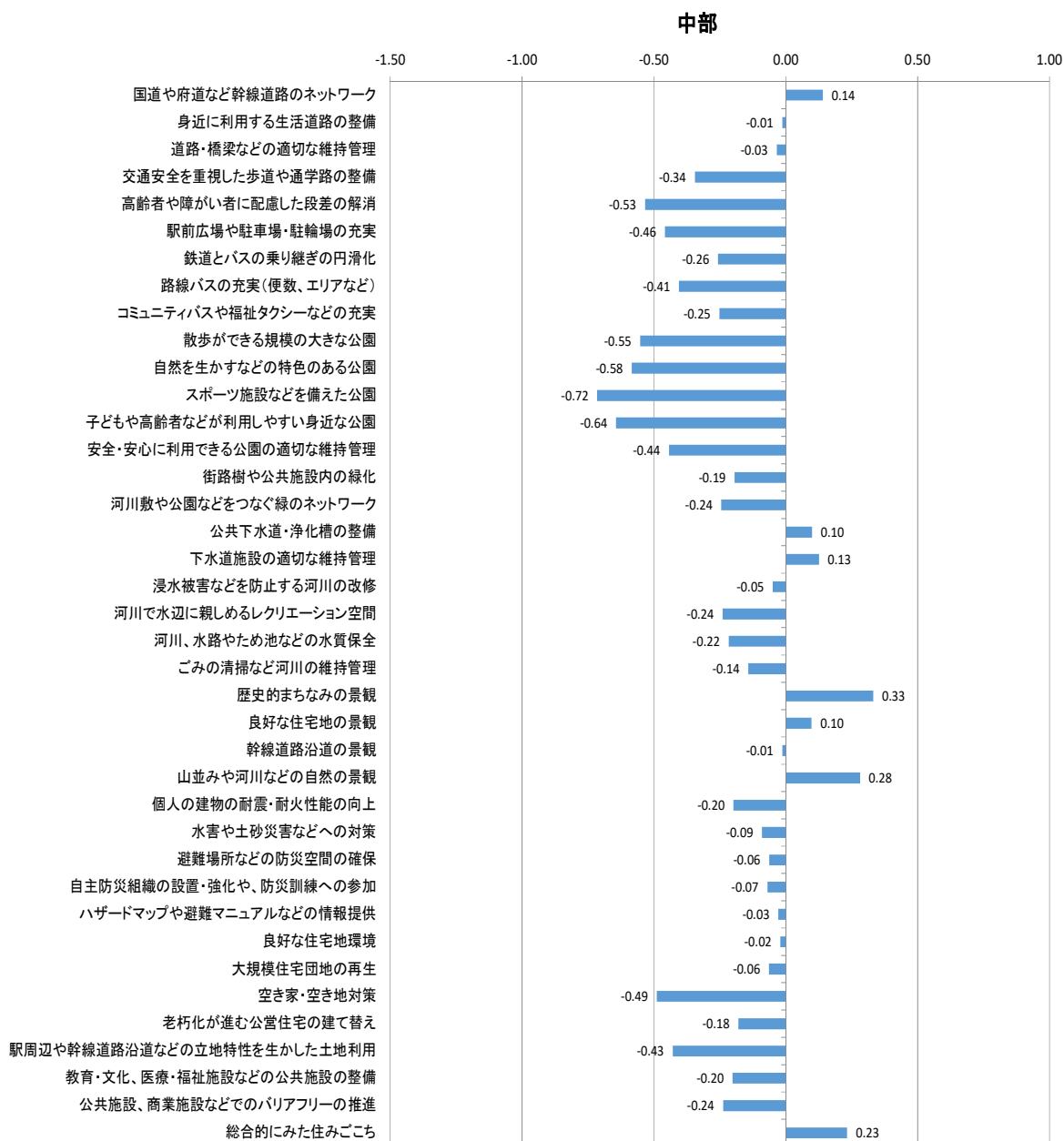
○北部地域

- 満足度が項目は「公共下水道・浄化槽の整備」「下水道施設の適切な維持管理」等で、不満度が高い項目は「スポーツ施設などを備えた公園」「コミュニティバスや福祉タクシーなどの充実」等となっています。
- 全体的に公園・緑地分野に対する不満度が高い傾向が見られます。



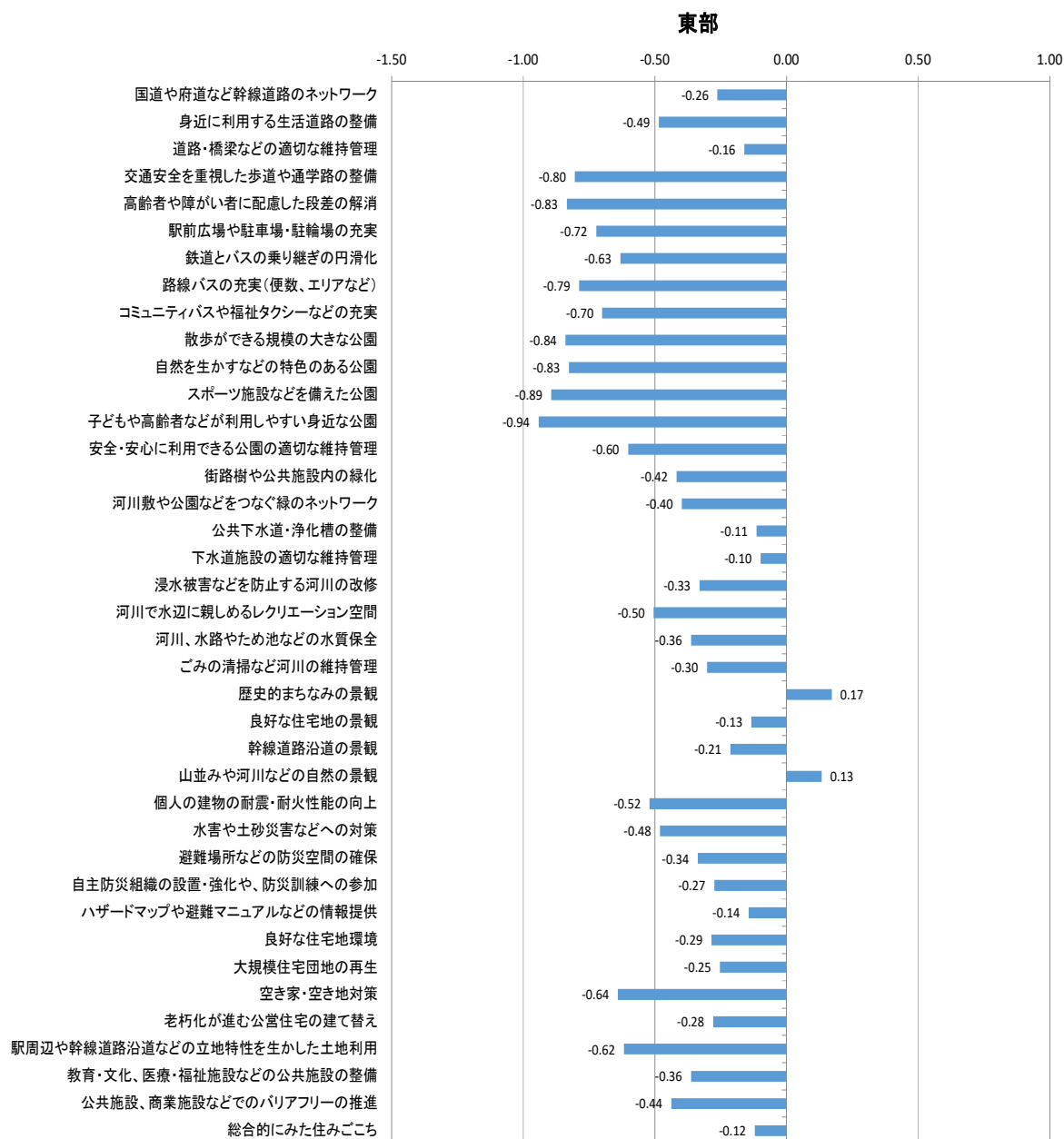
○中部地域

- ・満足度が高い項目は「歴史的まちなみの景観」「山並みや河川などの自然の景観」等で、不満度が高い項目は「スポーツ施設などを備えた公園」「子どもや高齢者などが利用しやすい公園」等となっています。
- ・全体的に公園・緑地分野に対する不満度が高い傾向が見られます。



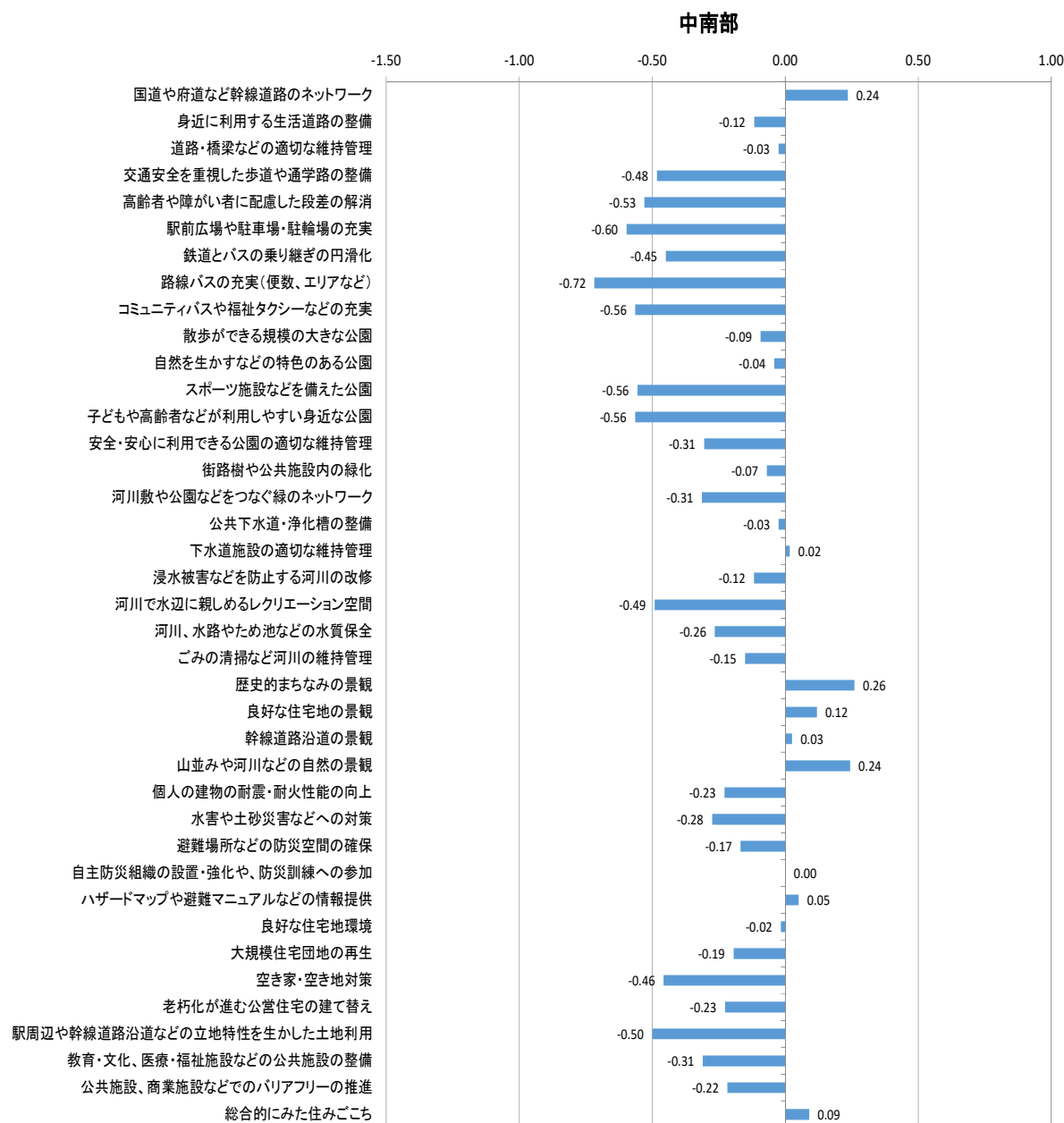
○東部地域

- ・満足度が高い項目は「歴史的まちなみの景観」「山並みや河川などの自然の景観」等で、不満度が高い項目は「子どもや高齢者などが利用しやすい公園」「スポーツ施設などを備えた公園」となっています。
- ・他地域に比べて、全体的に不満度が高い傾向が見られます。



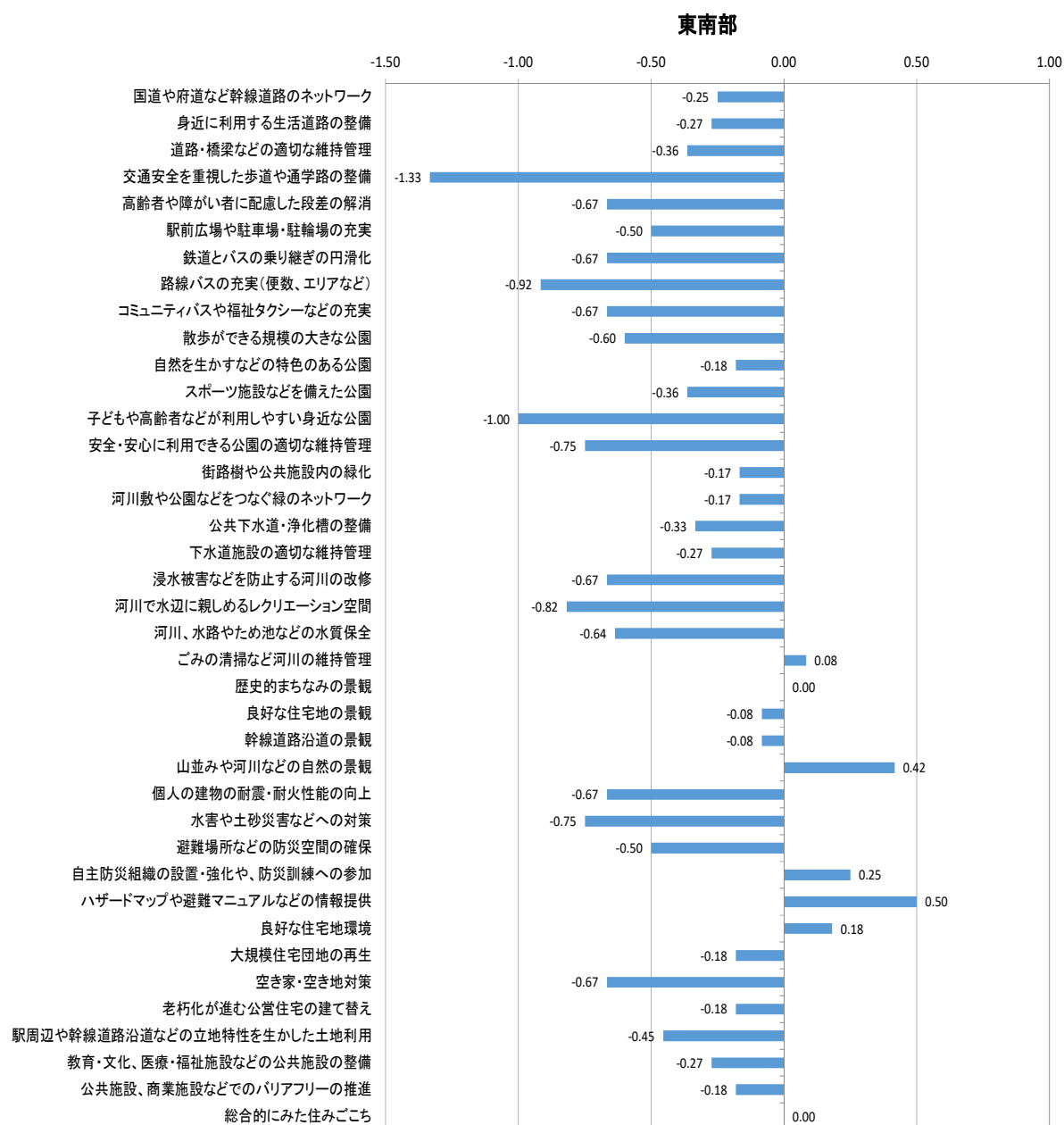
○中南部地域

- ・満足度が高い項目は「歴史的まちなみの景観」「山並みや河川などの自然の景観」「国道や府道など幹線道路のネットワーク」等で、不満度が高い項目は「路線バスの充実」「駅前広場や駐車場・駐輪場の充実」等となっています。
- ・交通施設分野や下水道・河川分野で不満度が高い傾向が見られます。



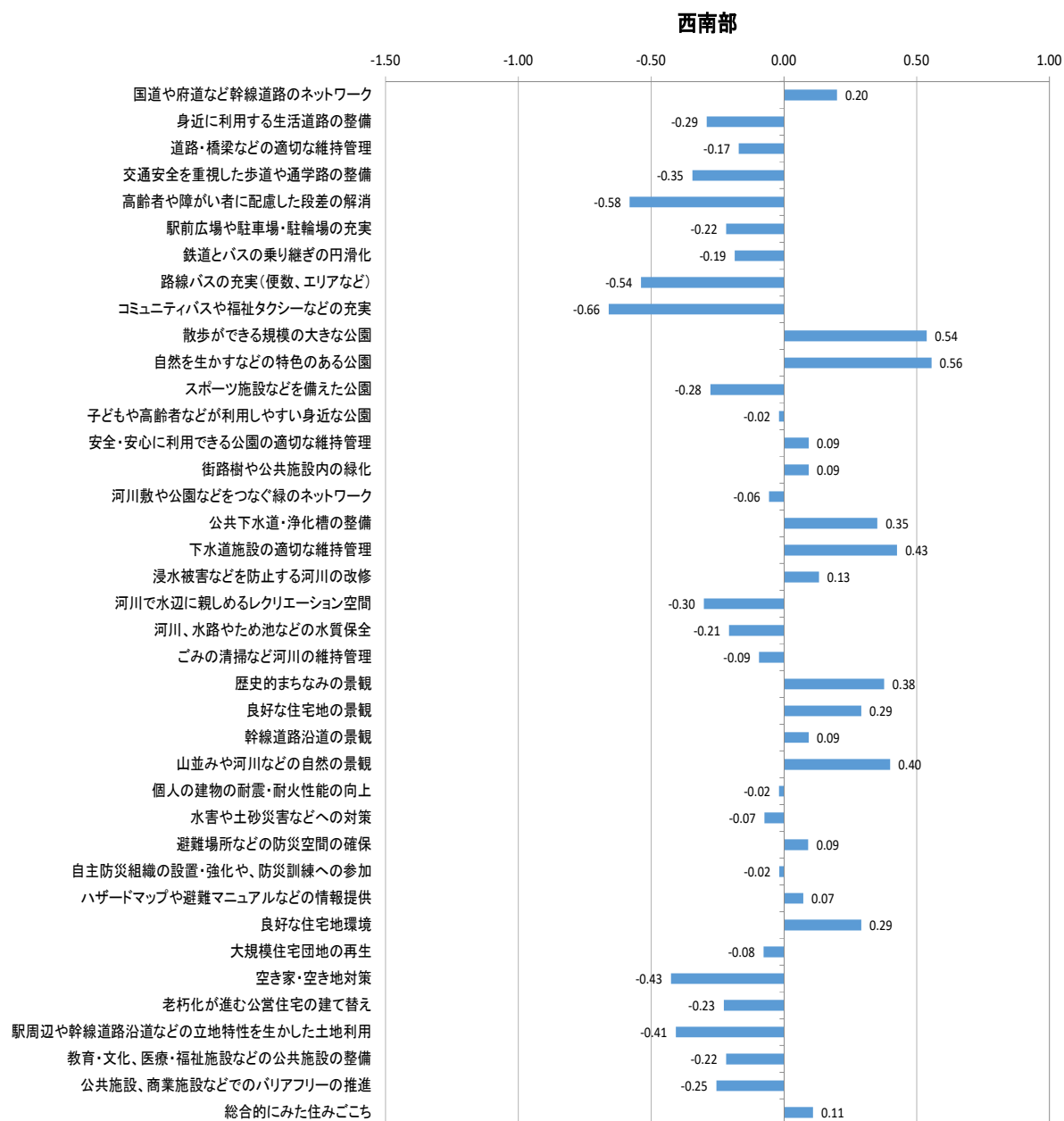
○東南部地域

- ・満足度が高い項目は「ハザードマップや避難マニュアルなどの情報提供」「山並みや河川などの自然の景観」等で、不満度が高い項目は「交通安全を重視した歩道や通学路の整備」「子どもや高齢者などが利用しやすい公園」等となっています。
- ・他地域に比べて、全体的に不満度が高い傾向が見られます。



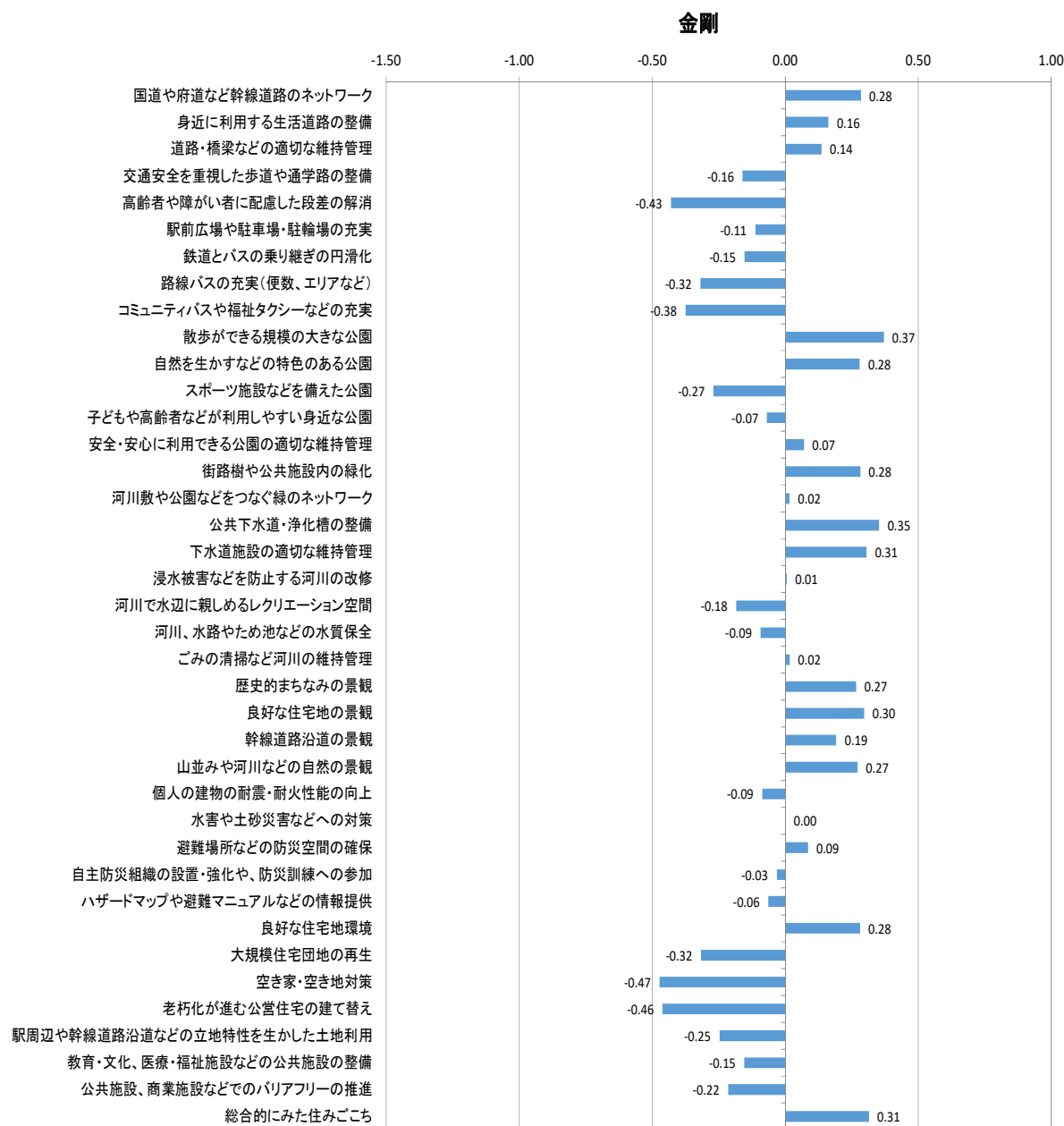
○西南部地域

- 満足度が高い項目は「散歩ができる規模の大きな公園」「自然を生かすなどの特色のある公園」等で、不満度が高い項目は「コミュニティバスや福祉タクシーなどの充実」「高齢者や障がい者に配慮した段差の解消」等となっています。
- 他地域に比べて、全体的に満足度が高く、特に公園・緑地分野でその傾向が顕著に見られます。



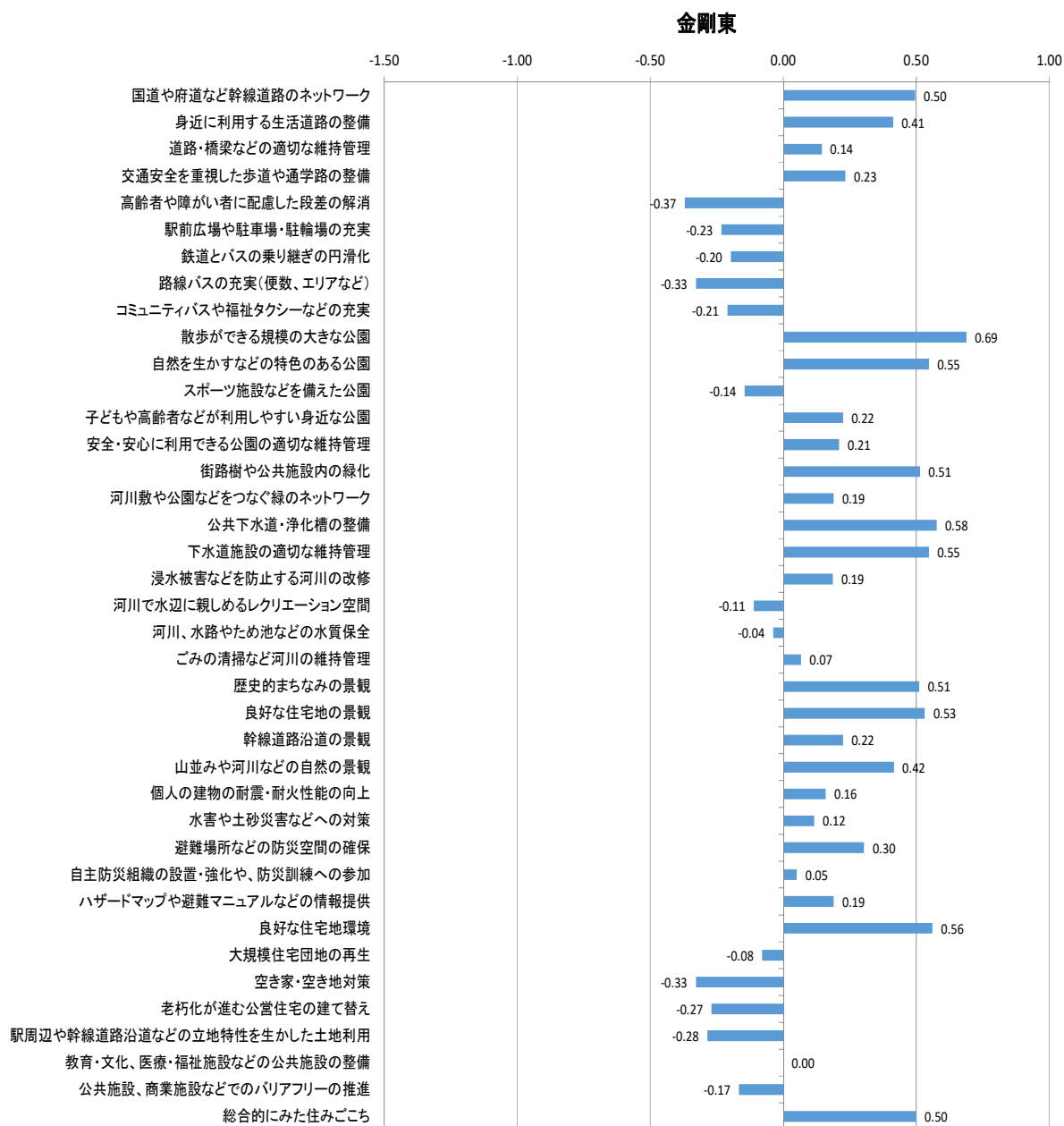
○金剛地域

- ・満足度が高い項目は「散歩ができる規模の大きな公園」「公共下水道・浄化槽の整備」等で、不満度が高い項目は「空家・空き地対策」「老朽化が進む公営住宅の建て替え」等となっています。
- ・他地域に比べて、全体的に満足度が高く、特に公園・緑地分野や交通施設分野でその傾向が顕著に見られます。



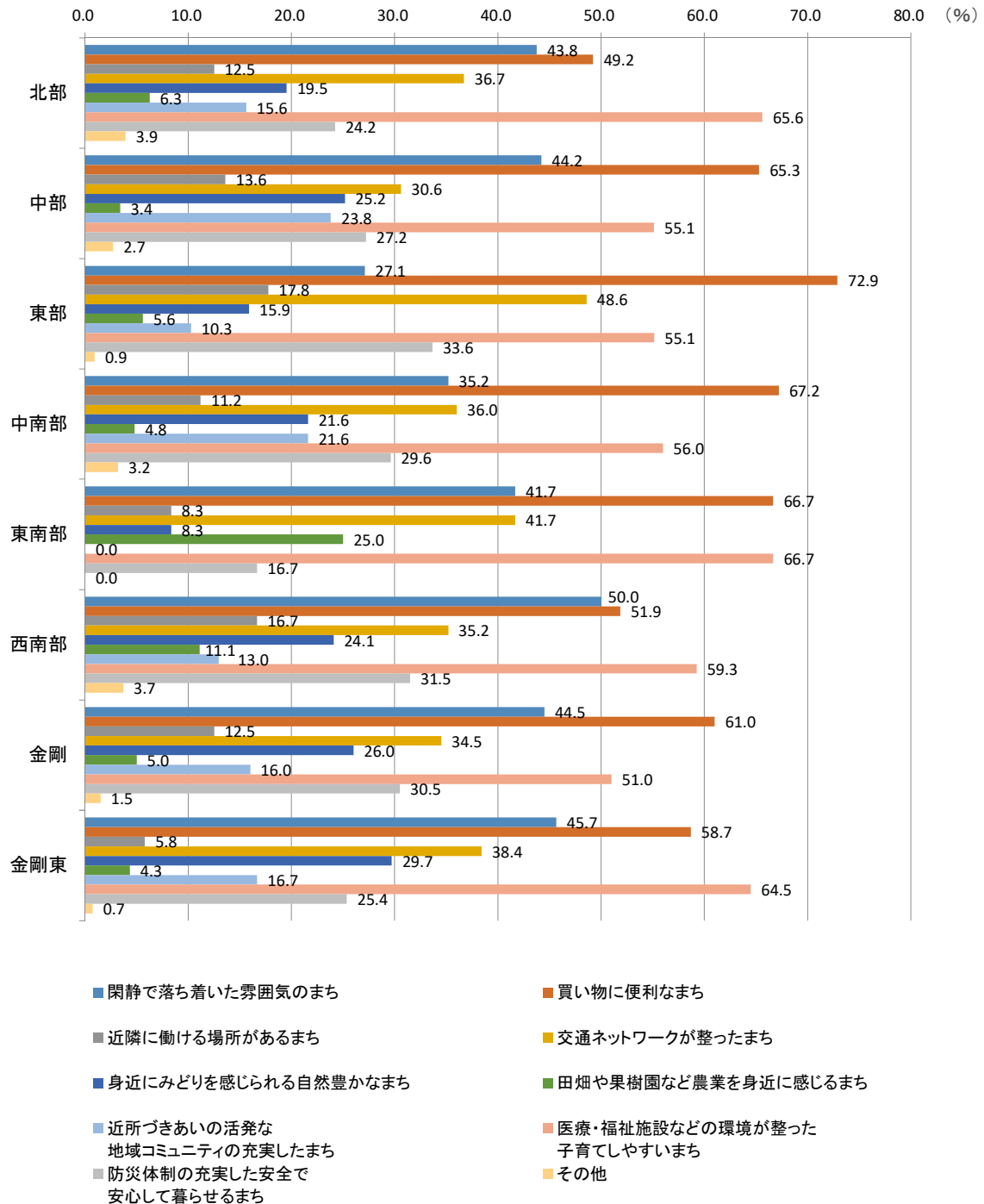
○金剛東地域

- 満足度が高い項目は「散歩ができる規模の大きな公園」「公共下水道・浄化槽の整備」等で、不満度が高い項目は「高齢者や障がい者に配慮した段差の解消」「空家・空き地対策」等となっています。
- 他地域に比べて、全体的に満足度が高い傾向が見られます。



② まちの将来像（複数回答）

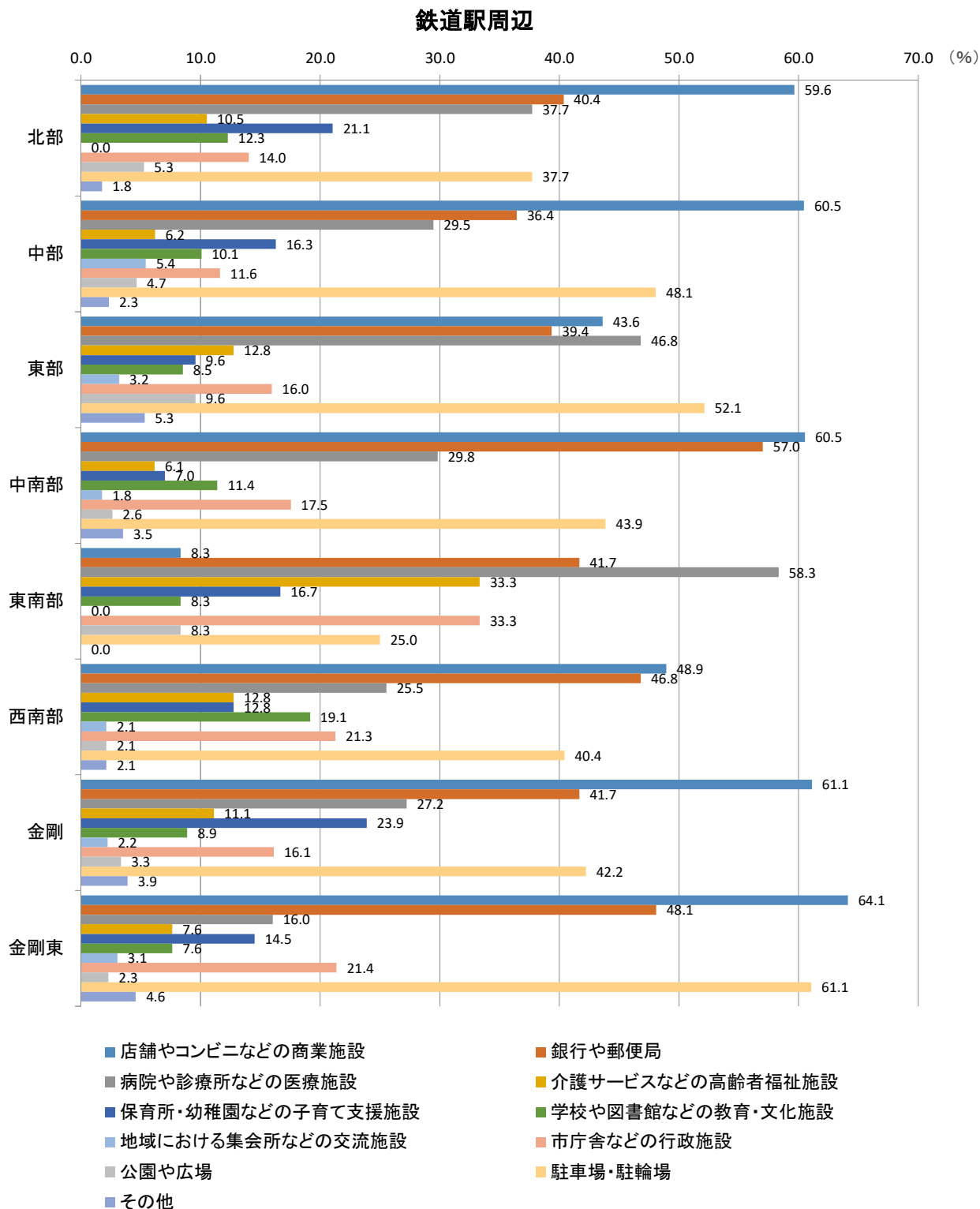
- ・住まいの地域の将来像は、各地域ともに「買い物に便利なまち」「医療・福祉施設などの環境が整った子育てしやすいまち」の割合が高くなっています。



③ 必要な施設（複数回答）

○鉄道駅周辺

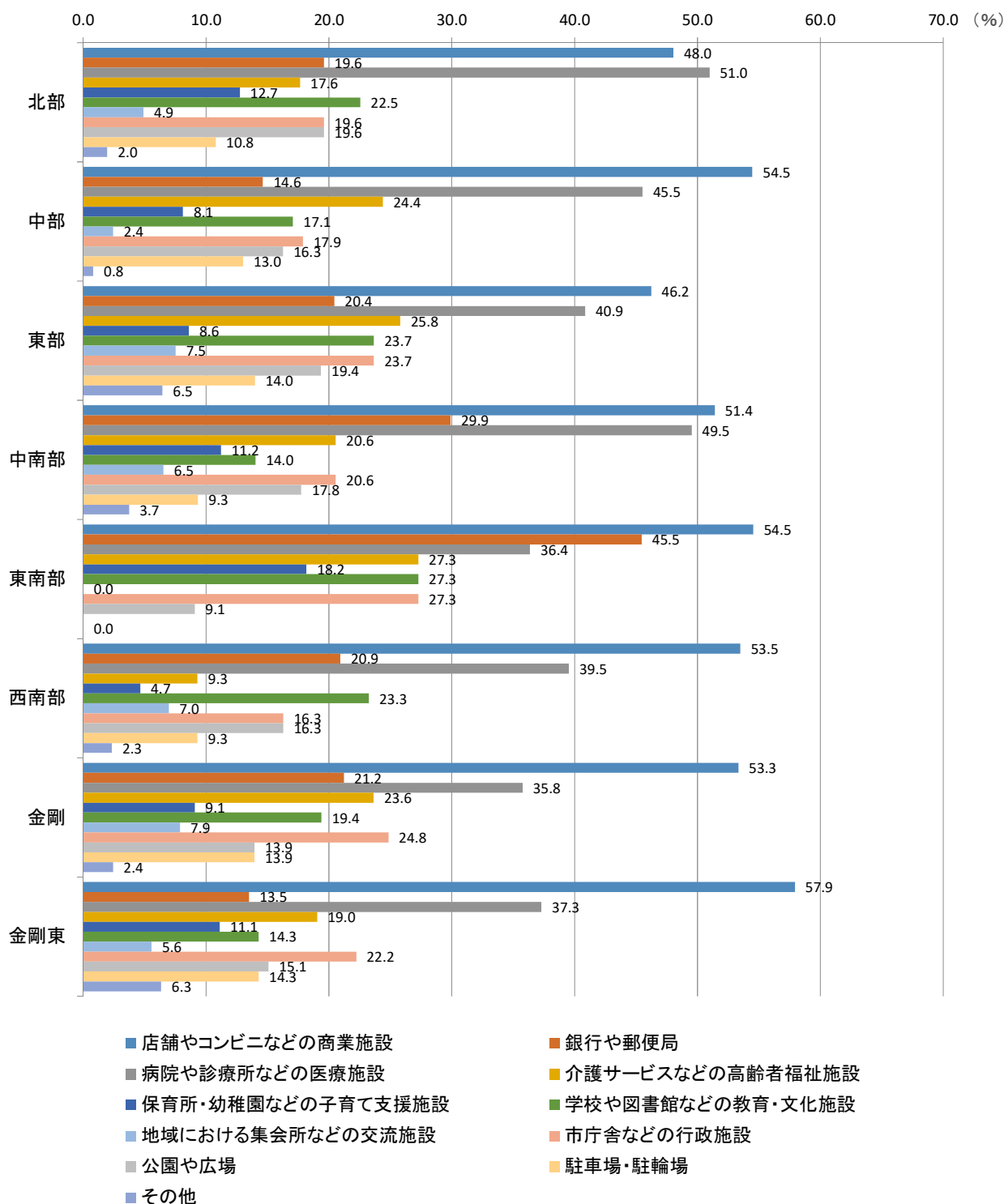
- ・ 鉄道駅周辺に必要な施設は、各地域ともに「店舗やコンビニなどの商業施設」の割合が高くなっています。
- ・ 中南部地域、西南部地域は「銀行や郵便局」、東南部地域は「病院や診療所などの医療施設」の項目の割合も高くなっています。



○幹線道路沿道

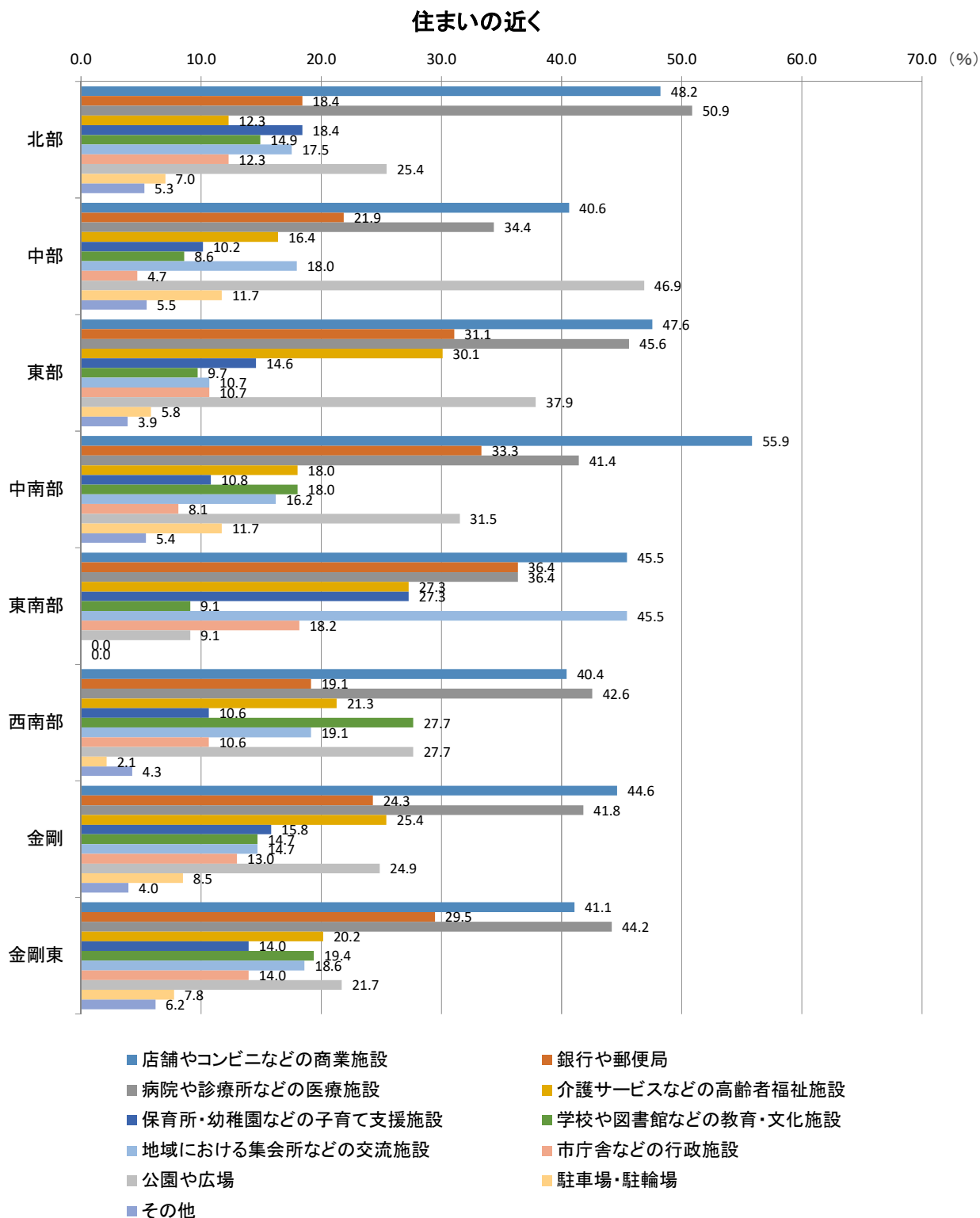
- ・ 幹線道路沿道に必要な施設は、各地域ともに「店舗やコンビニなどの商業施設」と「病院や診療所などの医療施設」の割合が高くなっています。
- ・ 東南部地域では「銀行や郵便局」の項目の割合も高くなっています。

幹線道路沿道



○住まいの近く

- ・住まいの近くに必要施設は、各地域ともに「店舗やコンビニなどの商業施設」と「病院や診療所などの医療施設」の割合が高くなっています。
- ・中部地域や東部地域は「公園や広場」、中南部地域は「地域における集会所などの交流施設」等の項目の割合も高くなっています。



3. 団体ヒアリング調査

1.目的

団体ヒアリング調査は、市内において各分野で活動する団体を対象にまちづくりに関する意見を聴取し、まちづくりの課題や都市整備の方針の検討等の参考とするため実施しました。

2.対象団体と実施日時

分野	団体	実施日時	場所
産業	農業委員会 (役員 3 名)	平成 29 年 11 月 6 日 (月) 14:00~	市役所
	商工会 (青年部) (6 名)	平成 29 年 11 月 14 日 (火) 19:00~	市民会館
市民自治	町総代会 (役員 6 名)	平成 29 年 12 月 11 日 (月) 14:00~	市役所

3.団体ヒアリング調査の内容

分野	団体	ヒアリング内容	
産業	農業委員会	農業に関する現状と課題の把握、対応方針について	① 現状と問題点 (課題) ② 主な意見
	商工会 (青年部)	商工業に関する現状と課題の把握、対応方針について	
市民自治	町総代会	地域のまちづくり全般の現状と課題の把握、対応方針について	

4.団体ヒアリング調査結果

<農業委員会>

現状と問題点（課題）	主な意見
■厳しい農業経営等 - 農家は利益が上がらないと農業を継続していくことは困難である。 - 新規営農は国の新規就農制度があるが、全国では、新規就農に対して、廃業が大幅に上回っている状況である。大阪府内はもっと厳しいだろう。 - かつて某企業 A が新規営農に参入したが手を引いた。人件費すら出ないので企業参入は難しい。また、某企業 B が障がい者雇用の一環として、農業に携わっているが多額の赤字と聞いている。 - 全国と同様、高齢化と後継者不足である。 - 将来的には、多くの耕作放棄地が発生すると予測されている。 ■農地整備（ほ場整備）の遅れ - 他府県に比べて農地整備（ほ場整備）が遅れているため、耕作面で不利な環境にある。 ■都市農地の保全 - 市内の生産緑地が減少し続けている。平成 29 年には生産緑地法の改正がなされ、自治体の判断で面積要件を引き下げることが可能となった。	■農業経営の安定化 - 農地（農業）を維持するためには、農家収入の向上や収入を補償する制度が必要である。 ■農業教育の取り組み - 農業を守るためには、子どもたちへの農業教育が最も大切である。 ■大学等との連携による人材の確保 - 農業の育成には大学との連携等、地域の資源を活かし、魅力をコーディネートできる人材の確保が重要である。 ■中山間地域における農業の振興 - 荒廃化が進む中山間地の農地を開発し、平地の優良農地は保全してほしい。 ■生産緑地の指定面積要件を引下げ、都市農地の保全を図るべきではないか。

<商工会（青年部）>

現状と問題点（課題）	主な意見
【工業】 ■道路整備が不十分 - 企業団地と幹線道路を結ぶ道路整備が不十分であるため、大型車両での搬入や搬出に苦慮されており、配送面でのハンディがある。 - 大規模な生産工場等は配送面から高速道路の IC 近くに立地を求める傾向がある。 ■広い敷地を求めて工場が移転 - 企業団地内の事業所はほぼ満杯の状況ではあるが、配送面等の関係から、近年は高速道路の IC 近くなど道路整備が行き届いた、安くて広い敷地を求めて、奈良の五条、御所方	■大型車両が通行できる道路の整備 - 企業団地内の道路は二車線で便利であるが、団地外では搬入・搬出する大型車両が円滑に通行できる道路整備や拡幅整備が必要である。 ■新たな工業用地の確保 - 新たな工業用地としては、市南東部の国道 309 号に近接する市街化調整区域の地区しかないだろう。

現状と問題点（課題）	主な意見
面に移転している傾向がある。 また、広大な敷地を求める事業者にとっては、市内に進出しづらい状況である。（企業団地内の敷地は 500 坪程度で 2,000 坪程度を求めているため。） ■住宅立地に伴う操業環境への影響 - 企業団地に隣接する準工業地域では住宅の立地が進んでおり、事業所にとって操業しづらい状況となっている。 ■工場移転が人口減少にも影響 - 企業団地内の事業所は市内従業者も多く、事業所の市外移転は人口減少にも影響していると考えられる。 【商業】 ■店舗等の用途規制（金剛駅周辺） - 鉄道乗降客は金剛駅が富田林駅より特に多いが、用途地域の規制が厳しく店舗等の立地が困難である。 （平成 27 年乗降客数は金剛駅（34,994 人/年）、富田林駅（13,768 人/年）） - 大規模な集客施設等は集客面から高速道路の IC 近くに立地を求める傾向がある。 【その他】	■用途地域等の規制の緩和 - 用途地域の見直しも含めて、まちづくりを考えてほしい。 ■駅周辺等の土地活用 - 駅周辺や幹線道路沿道等、利便性の高い地区においては、（集客力のある）複合施設等があると便利である。 ■歩行者等の安全確保 - 交通量の多い道路では、歩行者の安全確保のため歩道整備が必要である。 ■バスの充実 - 喜志駅-大阪芸術大学-富田林駅を循環するバスや、企業団地、滝谷方面等、路線バスの充実が必要である。

<町総代会>

現状と問題点（課題）	主な意見
■商業・雇用 - 市内では若者に需要の高い商業施設や働ける場所が少ない。 ■富田林寺内町等の PR 不足 - 大阪府唯一の重要伝統的建造物群保存地区である「富田林寺内町」をはじめとした、市の魅力が十分に発信されていない。 ■空き家や生産緑地 - 市内では、空き家が増加している。また、区画整理区域内に生産緑地地区があることにより、宅地化が妨げられている。 ■大学等との連携不足 - まちづくりに必要な地域大学等との連携がとれていない ■自然を活かしたまちづくりの評価 - 本市は某テレビ番組によると、自然を活かしたまちづくりが評価され「定年後に住んでみたいまち」の上位に選ばれている。	■若者の定住化 - 大規模集客施設の立地等、若者が住み続けたいと思えるまちづくりが必要である。 - 企業誘致等により雇用の確保等、若者が流出しないまちづくりが必要である。 ■富田林寺内町等を市の顔に - まず、市民に対して市の魅力を発信する必要がある。その手段として、市の史跡を巡る市民バスを運行してはどうか。 - 富田林寺内町の歴史的街並みを観光の目玉として打ち出す必要がある。また、観光客を呼び込むための観光バス等の駐車場の確保が必要である。 ■空き家の有効活用や生産緑地制度の見直し ■大学等との連携による魅力あるまちづくり - 大学等との連携により、地域の資源を活かし、魅力あるまちづくりを創出することが重要である。 ■自然の中で感性を磨くことの出来るまちづくりを今後も続けてほしい

4. 市民ワークショップ

富田林市都市計画マスタープラン改定のための まちづくりワークショップを開催しました。 ～地域の将来像、地域に必要な取り組みをみんなで考えよう～

まちづくりワークショップは、現在改定作業中の富田林市都市計画マスタープランにおける地域別構想の検討にあたり、地域の皆様のご意見などを参考とするため、平成30年2月18日（日）に実施したものです。

11月に実施しました市民アンケート回答者のうち、30名の方に参加いただき、居住地を元に、5つの班に分かれ、「地域の現状」、「地域の将来像」、「必要な取り組み」などについて多くのご意見やアイデアをいただきました。



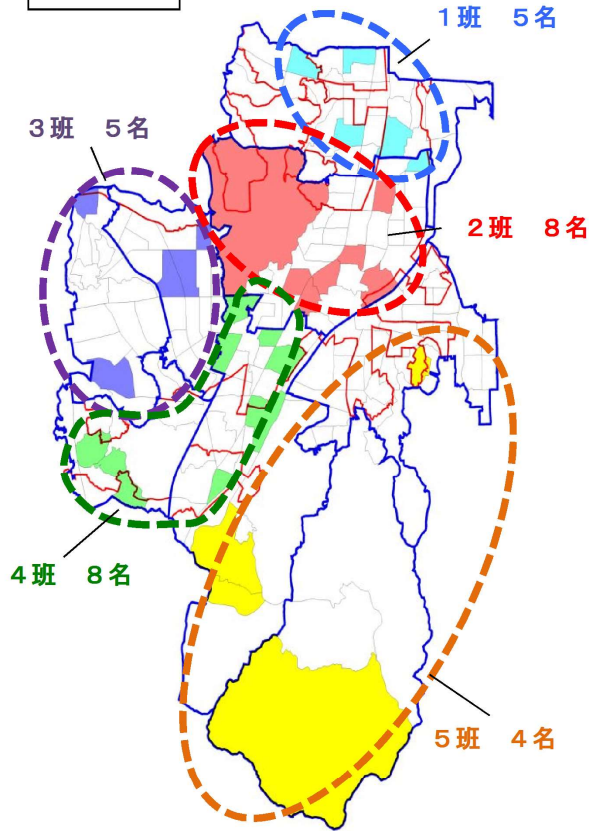
	ワークショップでの主なご意見	
	◇地域の魅力、◆地域の課題	○将来像、●必要な取り組み
1 班	◇自然が多い ◇公園や桜並木などがあり、散歩に最適 ◇治安が良い ◆歩道に段差があるので通行しづらい ◆コミュニティバスが不足している ◆駅周辺の活気があまりない	○人にやさしいまち ○移動しやすいまち ○活気・賑わいのあるまち ○安全・安心なまち ●地域の人たちとの交流 ●公共交通や道路の改善
2 班	◇寺内町などの良いまちがある ◇地域コミュニティが良い ◇近くに病院があるため、高齢化社会に向けての不安はない ◆郵便局が遠い ◆バスなどの交通の便が悪い	○一人ひとりの考え方や声を活かすまち ○人が互いに知り合って助け合うまち ○人と人との交流が盛んなまち ●産業の活性化 ●色々知恵を出し合い、学び楽しむ場所を作る
3 班	◇緑が豊か ◇散歩できる公園がたくさんある ◆歩道がでこぼこで困っている ◆巡回バスや道路などのバリアフリーがなされていない ◆近所付き合いがうすく、互いの面識が少ないため防犯上不安	○安全・安心・快適に暮らせるまち ○人と自然が調和できるまち ○大人と子どもが交流できるまち ○歩きやすい、暮らしやすいまち ●歩道や道路などの整備 ●公共交通の充実 ●防犯対策
4 班	◆レインボーバスなどの交通の便が悪い ◆少子高齢化が進んでいる ◆駅周辺に活気がない ◆街灯もなく夜道が暗い	○長く住み続けるまち・子育てができるまち ●地域の核を作るための人が集まる場の設置 ●公共交通の連携・充実 ●地域の活性化を図り利便性を向上
5 班	◇自然が豊か ◆空き家・空き地が多い ◆電車・バスの本数が少ない ◆少子高齢化が進んでいる ◆災害への不安	○地域資源を活かすまち ○全世代が生き生き暮らせる楽しいまち ●空き家・空き地の活用 ●高齢者の移動手段を確保 ●土砂災害、崖崩れの対策

※特に重要だと考える項目について、各自投票していただいた結果、その数が多かった項目を中心に掲載しています。地域の将来像は各項目を整理した主なキーワードを掲載しています。

※班分け図は次ページに掲載

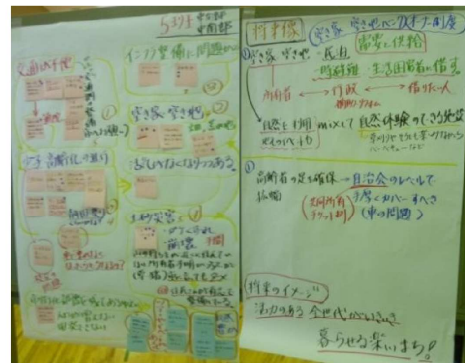
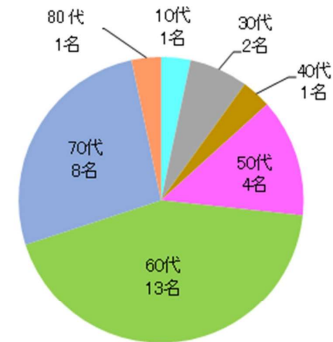
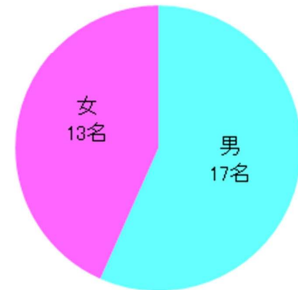
まちづくりワークショップの開催状況

班分け図



参加者

・参加者：30名



ワークショップに参加してみて

- ・色々な世代の方と様々な議論ができて良かった。
- ・住むまちを見つめ直すことができて良かった。
- ・意見や提言を、ぜひ取り込み実施してほしい。
- ・同じ地域の方々と意見交換ができ、同じような悩みや不安を共有できた。
- ・意見を出し合うことで、大変勉強になりました。
- ・富田林市が住みよいまちになっていけばいいと思いました。

など



富田林市 まちづくり政策部 まちづくり推進課

富田林市都市計画マスタープラン

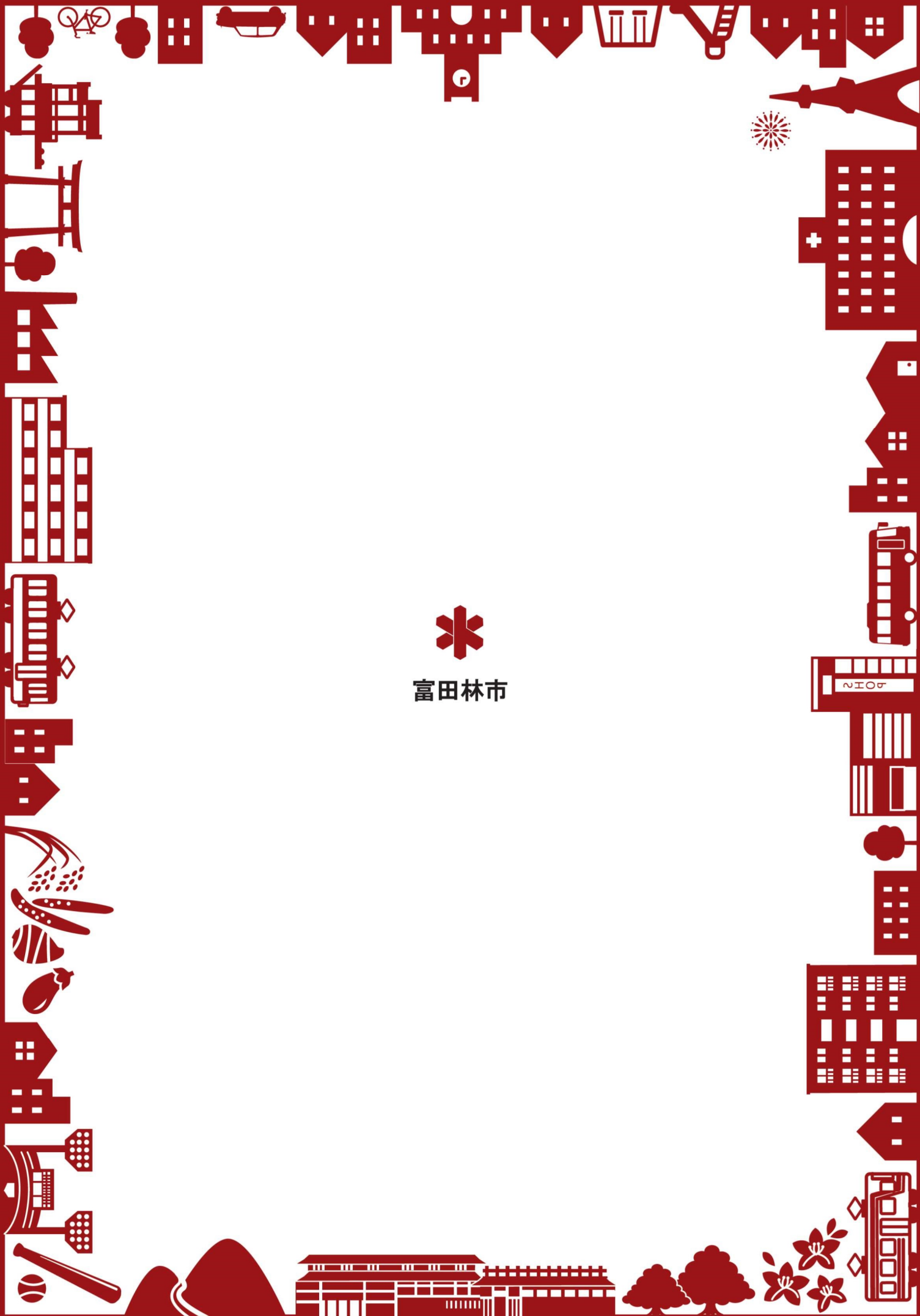
発行：令和 7（2025）年 1 月

編集：富田林市 産業まちづくり部 都市計画課

〒 584-8511 富田林市常盤町 1 番 1 号

電話 0721-25-1000

tokei@city.tondabayashi.lg.jp



富田林市